

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本免疫学会	9
日本農芸化学会	6
日本ウイルス学会	5
日本RNA学会	4
日本バイオインフォマティクス学会	4
日本動物学会	4
日本薬学会	4
日本放射線影響学会	3
ASBMB	2
RNA学会	2
再生医療学会	2
生物物理学会	2
日本プロテオーム学会	2
日本細菌学会	2
日本蚕糸学会	2
日本植物学会	2
日本生物物理学会	2
日本薬理学会	2
農芸化学会	2
ASCB	1
ASCB, SFN	1
SFN, 日本薬理学会	1
ウイルス学会、獣医学会	1
エピジェネティクス研究会、NGS現場の会	1
解剖学会	1
血液学会、免疫学会、米国細菌学会、米国血液学会、国際実験血液学会など	1
酵母遺伝学フォーラム	1
国際幹細胞学会	1
歯科基礎医学会、口腔組織培養学会	1
時間生物学会	1
植物化学調節学会、日本植物学会	1
植物学会	1
植物細胞分子生物学会、農芸化学会	1
神経化学会、解剖学会	1
進化学会、ゲノム微生物学会	1
進化学会、植物生理学会、育種学会	1
進化学会、動物学会	1
生理学会、糖尿病学会、肥満学会、内分泌学会	1
糖質学会	1
動物学会	1
日本cell death学会	1
日本RNAi研究会	1
日本RNA学会、ASCB、RNA Society	1
日本RNA学会、日本ミトコンドリア学会	1
日本RNA学会、日本進化学会	1
日本アレルギー学会 日本免疫学会	1
日本インターフェロン・サイトカイン学会	1
日本ウイルス学会、日本臨床ウイルス学会	1
日本エピジェネティクス研究会	1
日本エピジェネティクス研究会、日本プロテオーム学会	1
日本がん分子標的治療学会	1
日本ゲノム微生物学会、日本細菌学会、日本進化学会、日本ヘリコバクター学会	1
日本育種学会	1
日本育種学会 中国四国植物学会	1
日本育種学会、日本作物学会	1
日本育種学会、農芸化学会	1
日本宇宙生物科学会、軟骨代謝学会	1
日本栄養食糧学会	1
日本化学会、RNA学会	1
日本化学会、DDS学会	1
日本家族性腫瘍学会、日本臨床検査医学会、日本遺伝カウンセリング学会	1
日本環境変異原学会	1
日本血管生物医学会、日本リンパ学会、日本形成外科学会	1
日本顕微鏡学会	1

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本骨代謝学会、アメリカ骨代謝学会	1
日本実験動物学会	1
日本獣医学会、日本血栓止血学会	1
日本植物学会 RNA学会	1
日本神経化学会、日本神経科学学会、北米神経科学会	1
日本進化学会	1
日本進化学会、日本霊長類学会、日本人類学会、日本比較生理生化学会	1
日本人類遺伝学会	1
日本人類遺伝学会、日本遺伝子診療学会日本遺伝子治療学会、米国遺伝子治療学会日本小児科学会、日本先天代謝異常学会など	1
日本水産学会	1
日本生物工学会	1
日本生物工学会、日本時間生物学会	1
日本生物工学会、日本蛋白質科学会	1
日本生物工学会、日本農芸化学会、日本きのこ学会、糸状菌分子生物学研究会	1
日本生理学会	1
日本生理学会、SFN	1
日本生理学会、日本生物物理学会、日本神経化学会、北米神経科学会	1
日本蛋白質科学会	1
日本蛋白質科学会、日本RNA学会、日本ゲノム微生物学会、極限環境生物学会	1
日本蛋白質科学会、日本生物物理学会	1
日本土壌肥料学会、日本農芸化学会	1
日本動物学会、日本比較生理学会	1
日本毒性学会	1
日本内科学会、日本循環器学会、日本薬理学会	1
日本内科学会、日本薬学会	1
日本農芸化学会 米国微生物学会	1
日本農芸化学会、日本ビタミン学会、日本栄養食糧学会	1
日本農芸化学会、日本ミトコンドリア学会	1
日本農芸化学会、日本育種学会	1
日本農芸化学会、日本光合成学会	1
日本農芸化学会、日本獣医学会	1
日本農芸化学会、日本生物工学会	1
日本農芸化学会、日本薬学会、日本質量分析学会	1
日本農芸化学会日本生物工学会	1
日本皮膚科学会、日本研究皮膚科学会、欧州研究皮膚科学会	1
日本物理学会、日本放射線安全管理学会	1
日本物理学会、日本科学会、日本生物物理学会、日本分子科学会、日本蛋白質科学会、日本情報処理学会	1
日本分析化学会	1
日本免疫学会、日本腎臓学会、日本病理学会、日本医科大学医学会	1
日本免疫学会、日本内科学会	1
日本免疫学会、日本内科学会、日本リウマチ学会	1
日本免疫学会、米国血液学会、国際幹細胞学会、国際実験血液学会	1
日本免疫学会日本放射線影響学会	1
日本薬学会、日本栄養・食糧学会	1
日本薬学会、日本薬物動態学会	1
日本薬理学会、日本癌学会	1
日本薬理学会、日本実験動物学会	1
農芸化学	1
北米神経科学会	1
免疫学会、農芸化学会	1
薬学会、薬物動態学会、毒性学会、薬剤師会	1

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	分子生物学に携わるすべての常勤研究者が公金詐取の連帯責任で訴えられてもおかしくないようなレベルの不祥事が起きている状況で、普通の学会を淡々と行うことが許されるわけがない。
※	1	学術研究発表に専念するならば、小規模の学会の方が綿密な議論が可能です。巨大会にしかできないことにチャレンジすべきであると思います。
※	1	年会長を始め関係者の方々の苦労は大きかったと思いますが、巨大会だから出来る様々な企画は良かったと思います。
※	1	社会の学会に対する見方が、変わってきている。研究の世界への力のある参加者が減ってきているので、次世代を育てる意味でだいじだと思ふ。
※	1	いろいろと新しいことを試みることはいいことだと思う。ただし、今回の企画には参加はしていないので、評価はできないが・・・。
※	1	最近、分子生物学会に参加していなかったが、今年は配信メールに刺激されて、研究者社会の問題を何度も考えることができた。学会員であることを意識して、共通の課題を日本全国の会員と
※	1	年会長メールにありましたように、巨大会の存在意義を考えたとき、研究集会プラスアルファを求めるのは納得でき、プラスアルファの中身として、意義深いものと思います。
※	1	様々な新しい試みに挑戦して行かなければ、今回の会頭がおっしゃる通り、分子生物学会は衰退の一途をたどると思います。分子生物学会は、現在非常にバリエーションに富んだ集団になりつつあると思いますのでそれらのメンバーそれぞれが自分たちの特色を生かして、それぞれのカラーを出せる場であるためにも、学会に色んな側面を持たせることは有意義だと思います。
※	1	研究成果が一義的であるが、若い人に対して楽しいことをアピールすること、一般の人に対するアウトリーチも大事
※	1	学会長の意見に全面的に賛成
※	1	新しいことにチャレンジすることは、とても大切だと思います。
※	1	毎回やれる事ではないと思うが、今回の大会では4日目の催し物が秀逸だったと思う。
※	1	面白かったから。
※	1	学術講演に影響が出ないのであるなら、こういった企画はよいと思います。
※	1	巨大会の存在理由や価値を考えぬいた近藤先生の理念にここから同意します。サイエンスは本来楽しいもので、芸術の一つと言っても過言ではないと常々私は考えております。
※	1	本来の研究内容がどの分野もかなり煮詰まってきたように思うから。大きなトピックスがなく、関係者以外は興味を持たないような細かい内容に傾いている印象があります。
※	1	分子生物学会の様に、人材が豊富な大きな学会が率先してアウトリーチを行うべきと考えるから。
※	1	閉塞した状況を打破しなければ、分子生物学会も生化学会のように落ちぶれる
※	1	1、2ともに日本のライフサイエンス研究者が常日頃意識し、自己の行動に反映すべき問題であり、分子生物学会のような大きな学会でこそ、コンセンサスが模索できる機会を提供できるから。
※	1	今回の取り組みは非常に重要であり、学術だけでなく、社会の中での役割、基盤の整備(問題解決)に対してモーションを起こした点について高く評価し、感謝している。
※	1	分子生物学会にしかできないことであり、これまで明確に科学者が積極的に意見を自ら発信したことはないように思える。
※	1	最終日までイベントが目白押しでじっくり参加できました。
※	1	・とかく視野の狭い考え方に陥りがちな研究者に広い視点を提供できたと思います。・サイエンスセッションは、大抵どこかで同じような話が聞けるので、今回の企画は「面白そうだから行ってみようか」という学術集会参加の大きなモチベーションになったと思います。
※	1	新しい学会のあり方、可能性、学会はここまでできるんだ、という姿を見せてもらえたと思っています。恐らく賛否両論あるかと思いますが、私は今回のコンセプトに賛成しますし、継続・発展させていっていただきたいと思っています。
※	1	今回の大会は学会企画が面白く、学術以外の部分で大いに楽しめた。学会に参加して学術以外でこれほど楽しめた学会はなかったと思います。
※	1	企画がカジュアルだった点が特に良かった。参加しやすいため。
※	1	学会関係者がみんな意見交換できることはよろしいかと思ひます。
※	1	ポスター会場でジャズが流れているのは良い雰囲気だった。4日目の企画も楽しませてもらった。
※	1	あまり関連の集会に出なかったのだから分かりませんが、文科省の方等との公開討論は良かったです。
※	1	楽しかった
※	1	現在のアカデミア界、分子生物学会が抱える問題点に対して解決策を模索するという意味と、新しい風、刺激をもたらすという意味で、大変良かったと思ひました。
※	1	ガチ討論や大昼食会など、大きな総会でシンポジウム以外の企画を行うのは大変有意義だと感じました。音楽やアートなども大変面白いと思うのですが、同窓会的にならない様に(との文があった気がするのですが)に対しては、逆にイベント的になってしまう気もした。サイエンスアウトリーチに関してはそもそも、研究最先端を一般市民に伝えないといけないという点が議論の余地があると思うので、その意味では(2)についてはなくても良いかなと思ひます。
※	1	大きな学会の使命の模索として試みてほしいから。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	研究者は通常社会経験が少なく、視野が狭くなりがちであり、多くの問題はここに端を発していると感じます。研究業績や研究者としての肩書きを測る尺度以外の価値観を持ってないから、不正が起こるのです。若い人は、研究に関わること以外の価値観をできるだけ多く身につけることが必要です。このように、常識ある社会人としての振るまいを身につけるには、視野を広げる努力が絶対的に必要で、そのためには、研究以外の経験や、まったく違う世界の人との交流が欠かせません。本当は、研究に費やす時間を削ってでも、そういう経験をする必要があるのです。そのための試行であれば、どのような催しでも有効と思います。
※	1	近藤さんが言うとおり、学会は、研究者社会から一般社会への重要な発信源としての役割を果たすべきである。
※	1	今年のような年会は非常に意義のあることだと思います。近藤大会長の意気込みに感化されて、私自身が大会運営の当事者であるかのように、一緒に大会を盛り上げたいと思うまでに至りました。このような大きな学会であるからこそ、思い切って突き抜けることが出来るし、また、その必要があると思います。
※	1	今までと違って変化があって楽しかった。どんどん色んな企画をやるべき。
※	1	一般社会からの理解と支持あってこそ、研究者コミュニティの成立しえることを意識していかなければならない時代であるから。
※	1	研究者も社会の一部なのであるから、一般社会に関与すべきと思います。エセ科学の否定や、科学教育・研究の重要性のための情報発信など果たす役割は大きいと思う。
※	1	新しい試みも多く、特にニコニコ動画の反響が大きかった(分野外の研究者に話題に出され驚いた)ので、良い試みに感じた。
※	1	そのような取り組みが研究者に求められており、その必要性も理解できるが、実際には研究者が個々に取り組むには限界がありまた効果も薄い場合が多いと感じている。学会という単位で取り組み、会員は大会への参加等を通して貢献をするというのもいい形だと思う。
※	1	社会とコミットするのは当然なので、今まで無かったのがおかしいくらいです。
※	1	変革を常に意識し、それだけでなく実際に実行し、チャレンジすることが重要と思うから。
※	1	研究者は、社会との関わりを求められているので。
※	1	研究発表以外の楽しみを年会に与えた。それらが、従来の研究発表に対しても、閉塞感を打破する自由な雰囲気を与えたように思う。
※	1	多くの学会が日本に存在し、またインターネットの普及している状況の中で、研究に関する情報交換を分子生物学会で行う重要性が以前よりも薄れているというのは確かであり、参加する意義があるのかどうかと実際に悩んでもいた。近藤滋年会長を初めとした組織委員の御尽力により新機軸が打ち出された本学会は、学会のありかたを考え直し、かつ今後発展させる方向性を学会員1人1人が考える良い機会になったのではないかと思います。
※	1	マンネリ化した巨大会に新しい風を吹き込んだと思います。最近、年会に参加しないことも多くなって来たのですが、今年はいってよかったと思いました。
※	1	(1)、(2)何れに関しても、先ずは、トライをしたことは大きな成果だと考えられるから。(1)に関しては、必ずしも満足のいく形での討論の展開とはならなかったが、こうした活動を本学会の関連するテーマに関して行い続けることは、大型学会としてあるべき姿だと考える。
※	1	分子生物学会のような大きな学会では、異分野の研究者が多く参集することから、単に学術講演だけを行なっているのは細分化された専門分野の学会と変わらない。大きな学会ならではの活動が必要と思われ、分子生物学に携わる研究者の共通の興味(学術以外)についてのセッションは毎年一定数あって良いと考える。
※	1	新しい試みで、これからの学会のあるべき姿を見た。
※	1	研究者社会の問題は大いに扱うべきだが、単なるお祭り騒ぎならしない方がよい(時間の無駄だ)。多様な意見が品格を持って受け入れられないのは大きな問題。議論になっていない。陰で潰し合っている陰湿さが垣間みられた。長年に渡り仲間内だけで理事を回しているのもどうかと思う。すべてが理事や理事会のための学会にみえる。ということが表面化し、改善点を明確にできた(まだ不十分だが)企画としては悪くない。
※	1	なかなかそのようなテーマで議論する機会がないため。
※	1	そのような課題を議論できるのは分子生物学会だけだと思うから。
※	1	内容の是非はあるが、どの学会も似たような内容、新興国に遅れをとる日本のガラパゴス化した閉塞感を打破しようとしたことに意味があると思う。日本中の学会および研究集会は、既に世界から大きく遅れた日本の学術集会環境を直視した上で、今まで通り、変える、どのように変えるか、それぞれが考える時期にあると感じる。
※	1	研究の発展のためには、研究者が社会との連携を深め、社会の理解と指示を得る必要がある。
※	1	とても忙しかったが、それぞれの企画にチャレンジが見えたとし、その中から研究世界でどのように生きていきたいかをいろいろ考える機会に恵まれたから。学会を積極的に「出会いの場」とする姿勢は良かったと思います。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答
 1.よかった
 2.学術講演以外はするべきではない
 3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	アウトリーチ活動は硬軟取り混ぜて、今後もっと盛り上げていってほしいと思う内容でした。jazzやアート作品の展示販売は1箇所に集めて美術館のような空間を作り、その会場には参加証を持たない一般の方も入場できるようにすればいいのではないかと思います。
※	1	学会の存在意義に立ち返り、「巨大会会ならではできること」を考え抜き、それを実現してしまったのは、やはりすごいと思います。課題(1)(2)へのチャレンジに、大いに賛同します。
※	1	小さな学会の年会では、学術講演が主になると思うし、それ以外は難しいと思うが、分子生物学会のような大人数学会では、そのような企画も可能であろうし、新しい企画への挑戦という姿勢を評価したい。
※	1	試みは面白いし、話題にもなった。
※	1	分野に偏りのない大きな学会なので、意見を発したり成果を公表したりするのは意味があると思います。
※	1	「研究者社会の問題解決」を議論する場がない。これは、おそらく学会が行うべきことである。研究者社会の問題は山積しており、「学術講演以外はするべきではない」などといっている場合ではない。今回の学会はその意味で画期的。近藤大会長に最大級の賛辞を送りたい。
※	1	最近の研究者の不祥事に対する他の先生の考え方を聞くことができた。
※	1	大きな学会の役割として、学術講演以外の部分が大きくなって良い時代であると思われま。研究者の内輪の世界は通用しない時代であり、社会の皆様の理解を得られなければ学術分野は減びると思います。従って、大きな学会の役割として、研究者の啓蒙と社会に対して積極的にアピールするのは当然のことと思います。学術的な議論を深めるには小さな学会や研究会が本質的に担いやすいことは自明であり、今後において役割分担が進むことを期待します。鷹の目(研究の流れをつかむ)は大きな学会で、虫の目(研究を深める)は小さな学会でが理想と考えます。
※	1	研究者社会には多くの問題があり、研究者が一同に会する場でそれらの問題を議論するのは当然のことである。また、2050年シンポは面白かった。面白いことで、やらないほうがいいのは、法に違反することくらいだ。
※	1	新しい事に挑戦するのは良いことだと思われるので。
※	1	大会委員長のコンセプト通り、巨大会会ならではのコンセプトが非常に面白かった。
※	1	巨大会会の役割について、12月13日配信の年会長メールの内容に賛成であるから。
※	1	研究者育成・就職支援の場になるから。
※	1	年会長のメールの内容に全面的に賛同します。あえて一つあげれば、巨大会会にしかできないことは例えばこういうことなのだと思います。まだまだチャレンジは始まったばかりだと思いますが。
※	1	毎年企画するのではなく、隔年くらいが適当だと思います。
※	1	内向きで研究をしていたら、他の科学技術や経済活動との競争に負けてしまうし研究分野や研究従事者の存在意義が問われる時代だから。
※	1	純粋な研究だけでなく議論しなければならない重要な問題が研究者の社会にはあり、学会への参加者もその問題に大きな関心を示しているから。
※	1	大規模学会としての使命を考えてのことだから。一昨年と昨年の年会は失敗していた。今年はやっと相当まともになった感を持った。
※	1	いい退屈しのぎになった。いい思い出作りになった。
※	1	巨大会会だからこそ可能なこと、を今回参加して私も実感できたので。
※	1	新鮮だった
※	1	アウトリーチの核としても学会は存在していくべきと私も考えているし、大きな学会だからこそできることを年会長は考え実行してくれた。公開プレゼンテーション企画など、有意義だったと思う。
※	1	実際に参加して、今までにない会員間交流を行うことができ、年会に参加する意義を実感できたから。
※	1	幅広い企画があることによって、講演以外にも、研究者同士あるいは一般の方との接点が広がる。
※	1	アートの要素や、研究業界での問題を見える形で議論したことが画期的な出来事だったから。
※	1	具体的に何をしていたかはわからなかったが、コンセプトを立ち上げたことには賛成。
※	1	他の学会にはない個性を出せたと思うし、アウトリーチにいろいろな形があることを具体的に示せてよかったと思う。
※	1	例年のマンネリ感が打ち破られた気がする。大きな学会規模のアウトリーチ活動は今後も行うべき。アウトリーチとしての効果はどうだったのでしょうか。
※	1	ガチ議論の模様をu-streamで視聴して、研究者コミュニティに対し研究者自身のすべきことがあることを知ったから。
※	1	趣向を凝らしていると感じた。
※	1	実際に参加してみて、研究者社会の問題を解決するには、まず研究者自身が団結する必要がある、巨大会会はその役割として適切であると考えたから。
※	1	学会が後押しすることで、研究者の意識が変わることが期待できる

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答
 1.よかった
 2.学術講演以外はするべきではない
 3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	同分野の研究者同士がプレゼンしあうだけではなく、背景の異なる多様な人々に研究の成果や価値を訴求することは今後ますます重要であり、分子生物学会のような大型の学会では特にそれが強く求められると考える。それには大胆な演出というべきものも必要であり、今回のいろいろな試みは方向性として極めて正しいと考える。科学行政の専門家を招いてのシンポなど、今後も継続されることを強く期待したい。
※	1	すばらしい。革命的な年会でした。年会組織委員の関係者に感謝致します。(1)特にガチ議論と研究不正。大学や研究環境の問題は、お役人や政治家ではなく、むしろ研究者の側に根深く蔓延しているものからくるということがよくわかった。こうした取り組みこそ、大きな学会で根気よく続けるべき。(2)これまでの年会にはアウトリーチというものは存在しなかった。36回年会にて、実効性のあるアウトリーチがはじめて出来上がったのではないのでしょうか。
※	1	Good tryであったと思います。結果的に今回の学会でしか得られない情報も多く興味深いものでした。
※	1	現在の科学界を取り巻く環境を考えると、本年会のようなコンセプトの元、学術講演以外の企画を考えることも必要だと思う。賛同の可否は研究者ごとにまちまちなので、賛同できる人を取り込む母体となってほしい。
※	1	ガチ議論、最終日の催し物、ともにおもしろかったから。
※	1	ややマンネリ化している印象があった分子生物学会に新しい風を起こしていただきありがとうございます。楽しかったです。
※	1	巨大会会の在り方として良い方向だと思います。
※	1	個人では難しいが集団だとできることがあるので、学会にはそのような役割が求められていると思う。
※	1	今回は、例年には見られない企画が多くあったと思います。若い世代だけでなく、多くの人々が参加することで、例年にはない交流があったと思います。また、若い世代が比較的明るい雰囲気という印象を持ちました。
※	1	年会長メールの内容のとおりと思う
※	1	多様性を広げることは良いと思います。そして、コミュニティ形成→発展の流れがあり、よく考えられていると感じました。学会期間が短く感じたのと、参加人数のキャパシティは限界であると感じているので将来的には学会全体、あるいはコミュニティごとにオンラインなどでやり取りできる小部会などがあると良いかも知れない。
※	1	学会には参加できなかったが、これまでにない取り組みが多く、特にメールによって毎日当日のシンポジウムなどの紹介などは、大変よかった。
※	1	研究だけでなく、Scientistとして将来を考えさせられました。
※	1	若い人の積極的な発言
※	1	研究者社会の問題やアウトリーチ活動について、自分の研究に直接関わる話ではないので、多くの研究者が消極的な姿勢であったと思います。また、関心をもつ研究者もその思いを共有する場を見つけることができず、行動を起こすきっかけを見つけれずにいたと思います。本年会は、これらの課題に一石を投じ、その波紋を広げる良いきっかけになったと思います。
※	1	いま日本のサイエンスは危機的状況にあり、学会からおおいに発信するべきと思う。
※	1	実際に企画した人は、準備も含めていろいろ考える機会があったと思うし、当日参加した人も、考えるきっかけになったと思う。
※	1	珍しくて、面白かった。
※	1	現代社会において、サイエンスのアウトリーチ活動は極めて重要だと思う。
※	1	学会が研究を核としながらも、それ以外の議論も出来る場となる事に賛同する。
※	1	刺激になった
※	1	現状打破を目指す全体的なコンセプトについては高く評価します。
※	1	研究活動が公的研究費で成り立っている。学会はこれまで研究に関する提言を様々な形で行い、増加する研究費で研究活動が拡大して来た。研究倫理の問題が生じた時自浄能力を示す事は当然の義務である。
※	1	研究者として十分に理解し、対応しなければいけない問題であるから。
※	1	アウトリーチに関して、普段から研究者各自が考えたほうが良いはずですが、現実問題として自分の研究テーマが面白くて、考えなければと思いながらアウトリーチについて考えることがほとんどなかったです。今回の学会で、アウトリーチに関する考え方の枠が押しつけがましくなく自然に広がりました。
※	1	何より斬新で楽しかった。楽しいことは注目を浴びる要素であり、最高のアウトリーチ活動であると思う。
※	1	学会は捏造や不正行為の監視役、裁定役として公的な役割も担うべき
※	1	新しいことに挑戦する姿勢、固定概念をくつがえすための努力は研究者になくはならないものであり、それを学会が先導して示してくれたと感じたので。
※	1	最終日午後の企画に参加しながら冷や冷やしたのは事実ですが、振り返ると忘れられそうにない年会で、これをターニングポイントに学会が変わってよいと思うようになりました。後日、年会長の文章を読んで、軽くやっていたように考えるべきことは考えていたんだと納得できました。常にチャレンジする姿勢は分子生物学会の気風に合っていると思います。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	(1)については参加できなかったが、(2)については最終日午後の企画に参加し、非常に有意義だったと感じた。演者を厳選したこともあり、一般の方が見ても非常に面白いものになっていたと思う。ただ、今後も同レベルの内容を維持していくのは難しいのではないかと感じた。
※	1	違った立場の人の意見が聞けるから
※	1	普段出会うことのない分野(事柄)を知ることで視野を広げることができるから
※	1	学術講演以外のものを入れることにより柔軟で重厚な会になった。
※	1	専門家達だけで閉じこもる学術集会には虫酸が走る
※	1	ほかの中規模や大規模の学会とは異なり、ライフサイエンス最大規模の学会ですので、ライフサイエンスと社会とのかかわりについて主体的に活動することの実質的なインパクトは他の追随をゆるさないと考えます。また、それができる唯一の学会ともいえると思います。ぜひ今後ともがんばっていただければと思います。
※	1	研究者社会の問題解決は、予想通りきわめて散漫な内容になっていて、予想通りに残念な内容だったが、アウトリーチに関しては、全てではないにしろ良い面があったと思う。ただ課題も多かったため、継続するなら次年度以降に改善して欲しい。
※	1	これまで、研究者社会が閉ざされた社会からなのか、研究者に問題が降りかかって表に出さないことを美德とする聖職とされているからなのか、問題を共有する場も議論する場もなかったため、このような機会は有って然るべきだと思います。また、巨大会で行ってこそ価値があると思います。
※	1	分子生物学会は日本における科学者達のお祭りであって欲しい。
※	1	今年はアートな表紙から違いが分かるくらい、今まで一番よい学会でした。毎年、年会長が誰だったかは覚えていないが、今年の年会長は一生忘れないだろう。近藤滋年会長に心から敬意を表したい。
※	1	年会長が提供した数々の企画は、学会の活動としては一見奇異に映るものだったかもしれませんが、肥大化し硬直化した本学会を甦らせる契機やその方向性を考えるのに大きな役割を果たしたと思います。
※	2	学会なのか、イベントなのか、中途半端であったように思います。イベント出席であれば、公的資金を使った場合、出張目的には成果発表や(研究のための)成果発表とは書けませんね。
※	2	研究倫理の醸成は学会の機能ではない。学会の機能は研究費を国に要求することであり、近づくべき相手は一般市民ではなく、官僚や政治家である。ロビー活動を行なうか、引退した教授、その他サイエンスを理解する人材を国会議員に擁立するような政治活動をしてけると助かる。
※	2	方向性は面白いと思ひ、それを評価しているが、学術講演の方が全面に押し出されるべきであると思う。
※	2	何をしに学会に行くのか、自分の目的意識がまだ企画について行けない。とても混乱した。
※	2	お祭りは別の機会が結構です。学術的なdiscussionの場として充実していただきたい。学会期間の前や後で自由に好きなように活動を試みてください。メインの学術的discussion,交流の場としての年会の目的を保守して欲しいです。
※	2	もっと全体的にゆったりとしたスケジュールの中であらうと、演題数のきわめて多い本年会では、やはり学術発表をもっとしっかりと聞ける場を作ることに労力をさいてほしい。
※	2	学会に参加する目的は、最新の研究内容を聴講し、議論することである。学会が本来あるべき姿を追求しないで、企画ものに走るのとは本末転倒では？
※	2	シンポジウム、ワークショップのレベルが低下しているように感じる。
※	2	学会年會に期待することは学術講演だから
※	2	大規模学会だからできた事であった反面、希釈されて「どこかでやってる事」みたいな感じがした。
※	2	学会の主役であるべき大学院生にはほとんど関心のないことですし、強い関心を持つべきとも思えません。研究発表・交流中心の会に戻っていただきたいと思っています。
※	2	参加者の発表機会を増やすこと以外のことはするべきではない。
※	2	学会の本来の目的を示すことが重要と考える。
※	2	分子生物学会のような大きな年會では良い試みだと思ひ、「学会」一般に考えると上記の回答となる。
※	2	学会に集中できなかった。
※	2	企画倒れであった。
※	2	いろんな企画をするのは全く結構です。楽しみました。ただポスターを見る時間が短い、会場に来場者が多すぎて入りきれずに聞けなかった、等の以前から有る年會の基本的問題をまず解決すべきではないでしょうか。
※	3	忙しくて自身の発表のセッション以外聞いていないので、よくわかりません。
※	3	全体として視野が狭く意見が偏っているように感じます
※	3	ガス抜きに過ぎないような気がしました
※	3	ものによる。学術講演と時間が重なっており、参加できなかったため、評価できないものがあった。
※	3	興味ない
※	3	関心が無い。
※	3	絶対やるななどという強い意見は持っていないが、多すぎたと思う。賛同はしない。
※	3	学会に参加しておらず、自分自身で見えていないので。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答
 1.よかった
 2.学術講演以外はするべきではない
 3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	3	参加していないのでなんとも
※	3	自分自身は学術講演しか興味がないが、それ以外のことを学会が試みるのは否定はしません。
※	3	学術講演以外のものをやってはいけない訳ではないが、あくまで研究をメインとして学会運営を行って欲しい。
※	3	社会の情勢の変化(SNSや学会増加など)や、学会にとって必要なことを、分かりやすい言葉で伝えていただけたのはよかったです。金額的にも切り詰められたということで、その分の労力がしのべられます。大変お疲れ様でした。評価として1. よかった、としてもよいのですが、賛同したのはコンセプト自体というよりはコンセプトを伝えようとする姿勢でしたし、婚活云々とか上記のコンセプトをぼかしてしまうような企画も散見されてましたので、3としました。楽しい感じのする学会にはなっていたと思いますが、それだけだったような気もします。
※	3	会長メールから誠意と努力を感じましたが、学会の意義・大きな学会の必要性には疑問です。難しいことです。正解はないでしょう。
※	3	研究者の世代によって、温度差があるので、世代における区分で議論して、最終的に取りまとめる方が建設的な意見も出て、かなり良いように思います。
※	3	個人的には学術講演の充実に力を入れてほしいが、大きな学会でないとできない活動をするのは、理解できるので。
※	3	メインをはき違えない限りは新たな可能性を模索するのは良い。
※	3	特になし。
※	3	企画は非常に意欲的であったが著者索引やキーワード索引などができず短時間で集中的に情報を得たいと思う人間にとってはかなり不便だった。学会にフルに参加できる人には楽しめたかもしれないが。
※	3	1,2,3の中間の意見です。壮年の身の実感としてはここまでintensiveにやらなくても思いましたが、若い人たち(ポスドク、助教レベル)がどう感じているかが恐らく大事なのだらうと思います。
※	3	既成概念にとらわれず、新しいことに挑戦してゆくのは分子生物学会らしくて良いと思いますが、「新しいことに挑戦する」とチャライのは別物だと思います。今年の年会は全体にチャライ。この雰囲気が数年続いたら、退会を考えます。今回のチャライ取り組みで盛り上がった若い人たちが沢山いたようですが、それだけでは学会としての改善にはつながらないでしょう。企画の多くは学会員しか楽しめないような内容だったので、アウトリーチの核としてはお話にならないと思います。ガチ議論は、研究社会の問題解説に寄与できる可能性をわずかに示せたのではないのでしょうか。
※	3	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	3	学術講演が非常に少なくて、異分野を知る機会が削除された。
※	3	40歳前後の1万人ポスドク計画の申し子達は、ポスドクにすら就いていない人も多い中、アカデミア・企業は年齢信仰から脱却できておらず、40歳前後の人たちの行く末は暗い見通しのままです。その解決策を提示できる企画は無いのでしょうか？アメリカのように、研究者はポスドク経験を経ることを条件とするとか、中途採用の門戸を広くするとかは、すぐに思いつく策です。さらい、もっと官民の連携を密にすれば、アカデミアの求める人材や企業の求める人材の情報交換も頻繁となり、人材の流動が活発になるのではないのでしょうか。官民の一体化の場所、または情報交換の場所として、会員構成の裾野が広い分子生物学会は役目があると思います。
※	3	自分は学術講演にしか興味がなく、また、新しい試みに全く賛同する気はないが、こうした新しい試みが何かしらの意味を持つことを否定もしないので、やりたければ好きにやってください。
※	3	初めて参加したので、これまでとの差異がわからない

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

- 質問7. 回答
- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」 | 6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 |
| 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」 | 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助) |
| 3. 「学会とJAZZの融合」 | 8. 特別企画全般について評価していない |
| 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」 | 9. 特になし |
| 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」 | |

※	質問7 回答	理由記述
※	1	議題として取り上げる内容に関して、聴衆とパネラーとの間に隔たりが大きいかと感じましたが、議論を重ねることは重要だと思います。同様の場を毎年開催しても良いと思いました。
※	1	研究者のために、たくさんの心ある方々が「既に動いている」ということに、恥ずかしながら気づかされました。研究者は「与えられる」ことに馴れすぎているのかも知れませんが、最後まで議論を拝聴した者として、登壇者の方々に厚く、熱く、御礼申し上げます。ただ、海外研究者ネットワークの会の登壇はやや唐突だった感が否めません。加えて、日本と海外の温度差の違いを感じてしまいました。どれくらいの日本在住研究者が海外在住研究者の「心配」をしているのでしょうか？もちろん、その啓蒙活動？のための登壇なのは理解していますが。。。おそらく自分を含めて日本在住者は自らのことで精一杯です。
※	1	あまり時間が無くて、見てません。
※	1	如何に科学者が多様な意見を受け付けられない狭量な人種であり、それが若手にもシニアにも見られることが多くの目に曝され、明らかになった。これは意味がある。研究者、教育者は、もう少し頭がよいのかと思っていたが残念だ。まずは愚かさを認識する事からのスタートとして必要であったと思う。
※	1	学会には行かなかったが、ガチ議論を視聴できた
※	1/2	とにかく議論して前に進むことが科学者の本来の姿。
※	1/2	変化につながると感じます。
※	1/2/3/4/ 5/6	学会参加に対するイメージが変わったし、いろいろと新しい考え方が得られた。
※	1/2/3/4/ 5/6	特に最終日午後の催しは多くの一般の方に興味を持ってもらえたのではないかと思います。
※	1/2/3/4/ 5/6	Q7と同様です。
※	1/2/3/4/ 5/6	1.論議がかみ合っていない部分が多々見られた。喋る時間など進行を考えた方がよい。2.参考になったが、喋っても良い現場の話、という感じがした。企業秘密と言う点から仕方が無いかも知れないが。3.4.5. サイエンスユーモアが通じるor通じないボスなのかフィルタリングができた感じがする。通じないボスにはなりたくないし、そのようなボスの下では働きたくない。6. 感動した、が、またやるには大変でしょうね。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	今回招待した海外ポスドクの数年後の所属先を調べてみて初めて効果があったかが分かります。すべての企画を年会毎に行なうことは難しいと思いますが、学会会場で笑えると言うのはよいと思います。トークショーで感じたことは、新聞の記事(または見出し)だけで歴史をふりかえるととんでもないことになる、と気がつきました。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	おもしろい！
※	1/2/3/4/ 5/6/7	全ての企画を楽しみ、全ての企画で刺激がありました。特に公開プレゼンテーションと2050年企画では、サイエンスとしてのクオリティーの高さはもちろんですが、それが極めて魅力的に演出されていたところがすごいと思います。ガチ議論では色々勉強になりましたし、特別シンポジウムは、薬学領域の人間にとっても興味深い内容でした。応用実学色の強い薬学領域と基礎科学の接点が出来れば、両領域の研究者にとってもメリットは大きいと思います。JAZZやアートは、今回見る側でしたが、次回以降どこかでやる側に回ってみたいと思います。ポスドク企画について私は関与していませんが、その意義に賛同します。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	ガチ議論は新たな試みとして大変興味深かった。アカデミアが抱える問題を提示できるとともに、パネラーの方たちの思いが伝わって大変良かった。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	いずれの企画もそれぞれとても面白かったです。だからこそ、もっと積極的にプログラムに入れていきたいという気持ちがありました。ランチョンあとの一時間など、次のセッションに行くまでの時間に何らかの企画を入れると、なんとか合間に聞こうという時間も取れるかと思っています。夜の企画は是非、あらかじめ内容に関するアナウンスをしっかりと、各自の同窓会・交流会などと調整が利くようになっていたらもっといいのではないかと思います。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	学会の将来像を見据え、チャレンジングな企画を多数盛り込んで、非常にすばらしいと感じた。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	サイエンスは文化であり、また文化の流れをつくり一つの媒体であろうと思います。他との文化との接点を探す、あるいはその形成を試みるのは他の成熟した文化もたどる王道だと思います。従って積極的にやるのはいいのではないのでしょうか。またユーモアのセンスもまさに文化の一つの流れであり、またアウトリーチにも重要な事だと思います。ただしこれらを企画、実行する労力を考えると、果たして継続できるのかどうか、心配になります。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	いずれも今までにない斬新な企画であったことが理由です。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	いろいろな試みがあった方がよい

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答

1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」
2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」
3. 「学会とJAZZの融合」
4. アート企画「サイエンスとアートの接点」
5. SFTークショー「2050年シンポジウム」
6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」
7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助)
8. 特別企画全般について評価していない
9. 特になし

※	質問7 回答	理由記述
※	1/2/3/4/ 5/6/7	ガチ議論では問題の全体像や多様な価値観を提案できたことに大きな意味があったと思う。また、ツイッターやユーチューブなどで意見を募ったことも、新たな試み。ここで盛り上がった熱がこれからも継続して、よりいい方向へ進むことを期待。「薬を創る」シンポは、研究者にいくつもの進む道(企業研究、大学、ベンチャー)を提示できたことや、どんな点が強いと他に差をつけられるかなどのお話があって、多くの方のためになったと思う。JAZZは、休憩時間に音楽を聴きながら論文を読めたりして、JAZZ、いいな、と思った。また、研究者間の交流にも繋がったのでは。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	すべての企画に賛同しますが、研究不正企画がここにはないのはなぜでしょう。あの企画が特にすばらしかった。若い世代は見ています。自分達だけがよければいいとシニア世代が思っているのか、本気で腐った部分を切り落として次の世代が自由にできる環境をつくらうとしているのか。前年の年会あたりから、分子生物学会が本気で変わる兆しを見せていると感じています。次年度の噂が聞こえてきませんが、大きく期待しています。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	Q6と同じ
※	1/2/3/4/ 5/6/7	学生の時に分子生物学会に参加して研究者への道を真剣に志しました。約15年前の分子生物学会は初心者へのウェルカムムードが強く、様々なセッションを通じて研究に対する視野を広げることができ、専門外の先生からのコメントがとても参考になっていました。しかし、最近の分子生物学会は蛸壺研究会が複数同時開催されているだけと感じ、学生も全日参加したがいらないため、つまらなく感じ、3年ほど参加していませんでした。今回は学生もとても刺激を受けたみたいで、研究がうまくいっていない学生にやる気を引き起こさせる学会にもなっていたと感じました。私自身も『分生が蘇った』と感じました。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	自由に討論できる雰囲気だった。ジャズ企画で演奏を聴けてリラックスできた。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	すべての催し事、企画、アイデア、それらが実現している様が素晴らしかった。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	Jazzやアート企画など半分遊びのようなものでさえ、通常の学会活動を通しては絶対に知り合う機会のなかった会員同士のつながりが、実際に参加した者だけでなく、それを聴きに・見に来た会員の間でも生まれているようです。また、文部科学省の方を交えてのガチ議論は、我々が漠然と抱えている閉塞感を確かに打ち破るものであったし、2050年年会などの最終日の数々の企画も、我々はどのようにして社会と関わっていくべきなのかを考える上で、柔軟で魅力的な可能性を示してくれたと感じました。
※	1/2/3/4/ 5/6/7/8	捏造についての議論は時間の割には申し訳ないですが、薄っぺらい内容だったのではという印象です。
※	1/2/3/4/ 5/7	今回の分子生物学会は、これまでの学会と全く異なり、Jazzからアートまで幅広く芸術的な要素が取り入れてあり、非常に斬新で大変興味深く感じた。
※	1/2/3/5/ 6/7	アート企画「サイエンスとアートの接点」は面白い試みだったが、評価が"like"に依存するのはどうかと思う。昔の他学会のポスター賞など同様、共同研究先や大手の研究機関による組織的投票はアートに相応しくない。純粋に審査員が評価する体制ならもっと良かった。
※	1/2/4	アカデミア内のみではあまり触れることのできない情報に触れる機会を提供できたから。
※	1/2/4	生命科学研究を考えるガチ議論は、研究発展のために国や社会が何かしようと考えていないことを知るのにいい機会になった。
※	1/2/5	ガチ議論:メンバーが良かった。いろいろな方の考えを聞けたこと。議論をまとめるのはやはり難しそうだと感じたが、それはしょうがない。2050年:発表者の力量に依存する企画でしたが、最終日ということで単純に楽しいことも必要。プレゼンの力の重要性を感じた人も多かったのではないのでしょうか。サイエンスをときに楽しく表現することは大事。もう少し、何をやるのか予め分かっていたら良いのかも思いました。内容を考えて参加する方もいらっしやると思うので。
※	1/2/5/6	研究者にできる社会貢献やこれからの研究について深く考える時間になって、大変刺激を受けた。
※	1/2/5/6	まさに巨大会会ならではという感じがするので。その巨大さを利用・生かした企画であると思うので。
※	1/2/6	多種多様な視点を持つという点で重要であり、また他の学会では実現困難であることからとても良かった。わがままを言えば、(自分の都合で)日程的に参加できないものもあったのが非常に残念であった。
※	1/2/7	海外ポスドク招聘企画は特に良かったと思います。分生以外の学会では人数も限られると思うので、今後も出来るだけ続けていただきたいと思います。
※	1/2/7	1はQ5参照。2は企業あるいは産業の研究を知る良い機会だと考える。7は優秀な才能を金銭的にサポートし、学会を盛り上げてもらうのは重要であるから。
※	1/2/7	自身に関わるかどうかは別として、基礎研究者であっても、出口を見据えた研究があると言うことを、若いうちから知っておくべき。その良い面と悪い面を考えておくべき。
※	1/2/7	参加したものについて、良かったと思いました。
※	1/2/7	特に、海外のポスドク招聘は、大学院生、学生にとってよい刺激になったと思われる。他の行事に付いては、参加しなかったが、趣旨に賛同した。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答

1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」
2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」
3. 「学会とJAZZの融合」
4. アート企画「サイエンスとアートの接点」
5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」
6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」
7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助)
8. 特別企画全般について評価していない
9. 特になし

※	質問7 回答	理由記述
※	1/2/7	お金、ポスト、成果の社会還元に興味があり、これからの日本の科学の中で切り離せない問題だから。
※	1/3	多才な研究者に、研究以外でも活躍の場があるのは良いと思います。ガチ議論は有意義かつ楽しめました。これだけは毎年続けて、問題提起やメッセージの発信をして欲しいです。それ以外はチャライ雰囲気、「くだらねー」という感想です。
※	1/3/4	・ガチ議論は、みんなが聞きたい(参加したい)内容だったと思います。ただ、収集がつかない(パネリストが言いたいことを言っているだけ)状態になってしまったので、最初に提示してくださった分子生物学会からの提案(アンケートをとったもの)に対して、それぞれの立場の人に回答していただく方が良かったのではないかと思います。・Jazz & art は、気持ちが和みました。非常に良い企画でした。
※	1/3/4	Q6と同様の理由です。
※	1/3/4	JAZZもアートも、演奏している、販売(案内)している人が楽しんでいる様子が伝わって来てよかった。会場はもう少しわかりやすい(立ち寄り易い)ところにあってもよかったと思う。
※	1/3/4	海外学会のように、学会や研究会がリラックスして知を楽しむ場であって欲しいと常々思っています。海外ポスドク招聘は、近年のアカデミアでみられる、どんな手段を使っても「ホームランバッター」になることを求める姿勢をそのままみている様で、「学会の姿勢」としてどうなのか?と思いました。地道に「シングルヒット」を打っている研究者として虚しくなります。今学会では口頭発表がシンポジウムとワークショップのみで一般口頭発表が無く、この点についても同様の感です。
※	1/3/4/5	自分の参加した企画にチェックを入れました。その他は参加していないので判断できません。
※	1/3/4/5	リラックスできる。
※	1/3/4/5	現在の研究現場に存在する諸問題を解決するには、いわゆるアカポスにある人だけの営みだけでは対処困難であり、企業人や行政の専門家の視点も導入する必要がある。また、遺伝子組み換え食品の例に典型的にみられるように、一般の人々に正しい科学知識を伝えることも円滑な研究活動実現のためには欠かせない。そのためアプローチとしてそれぞれの企画はよく考えられており、初回としては上々の出来だったとよいのではないかと考える。これらは規模の大きい分子生物学会だからこそ可能なことで、貴重な試みだったと思う。
※	1/3/4/5/ 6	JAZZが特に良かった!
※	1/3/4/5/ 6	学会の基本的活動であるサイエンス以外の部分でのトライアルの多かった年会特別企画ではあったが、学会を「楽しむ」ことも人が「集う」ための施策だと考えられる。学会が不要であるとの意見もある中で、直接研究者が集まって議論をする場を設けることは、学会の不変の価値だと考えられる。従って、多くの人がまじめに議論すると共に、共感する形で楽しむのは意味があると思う。さらに、こうした「遊び」の部分に負けないよう、演題を出す側の「まじめさ」がうまく競われると、さらに学会が活発にあるであろう。
※	1/3/4/5/ 6	全般的によかった。学会にわざわざ足を運ぶ意味というものの一つの形をしめせたんじゃないか、と思う。
※	1/3/4/5/ 6	研究者の魅力は、研究内容やその成果だけでなく、各個人の哲学や人間性によって生み出されるものと思います。今回の企画は、研究者の魅力を様々な観点から見つけ出すことができ、大変良かったと思います。また、学部生・院生にとっては学会参加への動機づけ、高校生にとっては進学のための強い動機づけになったと思います。
※	1/3/4/5/ 6	とにかく参加していてワクワクしました。年会をオフ会代わりに使ったこともあるので個人的な違和感はありませんでした。中でも展開の読めないガチ議論は面白かったです。
※	1/3/4/5/ 6/7	すべて面白い企画であったと思います。
※	1/3/4/5/ 6/7	ガチ議論は、当初予定されていた研究者側の意見について、単に愚痴(不満)をぶつけるのではなく、行政や民間からの知識人の方から研究者が普段考えないような思考で解決ができるのではないかという意見が聞けたことが何よりも参加した成果だった。大学の有るべき姿が民間の方から明確に示され、会場からも同意の拍手が起こったことは、研究者の意識を高め問題を解決するためのアクションの起こし方について、皆が何かにはっと気がついた瞬間であったと思う。SFTトークショーは完成度が高く、ユーモアがあり非常に聞いていて楽しかった。今回の企画のなかでもずば抜けて素晴らしかった。
※	1/3/4/5/ 6/7	研究を進めるモチベーションになる。
※	1/3/4/5/ 7	学術発表・討論のみであればメールやスカイプなど代替手段は発達して来るが人と人が会うことに意義があると考えたため
※	1/3/4/6/ 7	1. 自分は参加できなかったが、参加者から良い評価を聞いた。3. いろいろなところに音楽があることは良かった。4. 良かったが、即売会などはもっとアクセスしやすい場所でやった方が良かった。6. 学会が一般へ広く情報発信を考えることはよいことだと思う。7. 多くの知り合いが利用しており、有用なものだと思った。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答		理由記述
※	1/3/4/6/7	今回の企画で、改めて科学者はアーティストであることを認識しました。展示会場に音楽が流れているのは雰囲気があって良かったです。また、研究分野の異なる方々の様々な意見を聞く機会が得られたことも有意義でした。
※	1/3/4/7	新しい学会のあり方を模索する上でとても良い試みだった。
※	1/3/4/7	JAZZに参加しました。講演発表と合わせて、大いに楽しみました。分野外のみなさんと知り合いになれて良かったです。
※	1/3/4/7	1.「生命科学研究を考えるガチ議論」については、取り組みは評価しますが、ファシリテーターの力量不足もあって、少々勿体無い討論内容になってしまった気がします。もう少し討論内容を時間で区切って話をされても良かったかと思います。3.「学会とJAZZの融合」は知り合いが演奏していたので、非常に楽しめました。チェックを入れない企画は参加していないので、評価できません。
※	1/3/5/6/7	とにかく斬新な企画が多かったと思います。若い方々を惹き付けるのにも良かったと思い、参考にさせていただきまます。また巨大会の重要性を良い意味で見直す事ができたと思います。
※	1/3/5/7	生命科学研究を考えるガチ議論はファウンディング側と政治家側がどのように考えているかがわかり参考になった。
※	1/3/7	日本の学会は堅苦しい感じがするので、Jazzの演奏は良かったと思います。良くないと言う人の気がしれない。
※	1/3/7	特別企画全般について感銘を受けた。科学には自由が必要不可欠であり、今回の大会には自由を感じた。
※	1/3/7	研究者だけの集まりで終わるのではなく、様々な問題を解決していく為には
※	1/4	選択した企画に興味をもつ際の、偏りが無いからです。
※	1/4/5/6/7	ガチ議論はいい企画だった。テーマの分量が多く消化不良の感はあったが今後につなげて行きたい。最終日午後の企画は様々な才能を見る事が出来てよかった。公開プレゼンテーションの形式は継続しビデオ等を学会の資産としてほしい。
※	1/4/5/7	「生命科学研究を考えるガチ議論」について、文科省の立場から、研究者の立場から、そして何よりYahooの安宅さんの立場から、生命科学研究の方向性を真剣に議論する場に参加したことで、自分自身がどういうスタンスで生命科学研究に携わり、貢献していくべきなのかを考える良い機会となった。さらに今回、インターネットを用いて学会前から学会員全員が議論に参加することができるようにして下さっていたのも良かったと思う。「2050年シンポジウム」は学会中のどのシンポジウムよりも面白かった。
※	1/4/7	企画に研究者のエフォートが割かれすぎではないかと感じた。
※	1/4/7	海外のポスドクに夢と希望を与える良い企画でした。
※	1/4/7	果たして、「ガチ」の議論となったかは不明ですが、試みは良かったともいます。今後、修正発展していき、もっと「ガチ」になることを望みます。アートは、専門家しかわからない世界を、一部でも他者に伝える手段の一つとして、とても良いと思いました。ある意味、マイナースポーツの選手が知名度向上と資金集めにテレビに出ることと同じ効果があると思います。海外ポスドクが日本の事情を知るためというよりは、内向きな傾向が強くなりつつある日本の現状に、海外の雰囲気を注入する(カツを入れる)効果があると思うので、継続してほしいです。
※	1/5/6	近藤色が出ていて、変革した分子生物学会を学生に大いにアピールできた
※	1/5/6/7	規模の大きな学会でだからこそ可能になる企画であるから。かつ個人的興味。
※	1/6	分生が生命を理解する集まりであるからでしょうか。
※	1/6/7	受け入れられる企画だったと思います。
※	1/6/7	ガチ議論については内容の重要性もさることながら、動画配信が助かりました。当方は大学で講義があったため神戸に行けなかったのですが、動画配信のおかげで視聴できました。しかしあまり特別企画を増やすと、肝心のシンポジウムやポスター発表と食い合いになってしまうと思います。
※	1/7	文部科学省の担当官とオープンな場で意見交流が出来たことは画期的なことである。何も結論が出ていないにせよ、今後の科学行政に良い影響は与えると思う。
※	1/7	ガチ議論は文科省の立場や学術会議のあり方など非常に勉強になり、よい刺激になりました。
※	1/7	政策を決める側の意見を聞けて良かった。
※	1/7	参加できなかった企画も多く残念でしたが、研究業界の将来について真剣に考えるこの2つの企画には特に賛同しています。
※	1/7	海外ポスドクの支援は留学する後押しにもなると考えたから。また、ガチ議論のような企画は大きな学会でないと実行が困難だから。
※	1/7	日本国内のサイエンスのレベルを上げるのに適切と感じられるため。
※	1/7	ガチ討論では日頃うかがえない政治家の活動もよくわかりました。研究者としてもっと(社会への啓もうという点で)できることがあるのではないかと考えさせられました。
※	2	2. アカデミアの研究者が薬剤開発などの世界に興味を持ついい機会になったと思う。7. 海外ポスドク招聘企画は一部の人のみに利益があるものであり、参加者全員から徴収した大会費から多額の補助をするのはどうかと思う。学生の参加費を無料にするとかでもいいかと思ひます。
※	2	日本人が創業ベンチャーを立ち上げて成功していることを知り刺激を受けた。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答		理由記述
※	2/3	生演奏は大変良かったです。あいにく特別シンポにほとんど出ていなかったの、少し残念でした。
※	2/3/4	新鮮でした。
※	2/3/5	学会で研究者が音楽を演奏してとても楽しそうだったし、聞いていてとてもホッとする気持ちになった。
※	2/3/6/7	一見真面目で業績のある方の意外な側面を見ることができ、親近感が沸いた。
※	2/5/6	参加したものを挙げました。いつもと違うもので良かったと思います。ただ、毎年企画するのはたいへんだと思いますし、新鮮みもなくなるので、不定期でもよいかとは思っています。
※	3	特になし。
※	3	参加しなかったのですが、JAZZとの融合には興味がありました。JAZZが好きなので・・・
※	3	とてもわくわくして、楽しかった。分子生物学会に入っていて良かったと初めて思えた。
※	3	Jazz企画は素晴らしかった。私も参加しました。今後とも、継続的に企画していただければと思います。
※	3/4	試みとしては良い。しかし、今回の場合は、中途半端な感じがした。音楽にしても、やるなら、もっと大きな音で、総会、懇親会などで聞かすようにしたら、良いのではないかと。
※	3/4	サイエンスの本来の価値・意味は芸術であります。しかし、現代サイエンスは技術にすぎないことが多いです。サイエンスの品格がなくなっています。
※	3/4/5	今までの学会にはない新しい試みであり、直接的には学術活動ではないかもしれないが、新しいメンバー間交流のきっかけになった。
※	3/4/5	それこそ分子生物学会の存在価値です
※	3/4/5/6	サイエンスとアートは不可分だと思うので。
※	3/4/5/6	海外ポスドク招聘に資金をまわすだけではいいか。国内ポスドクは参加費を払っているのに、不平等に思う。優秀な人材は是非招聘すべきだろうが、人数が多すぎるのではないかと。
※	3/4/5/6	非常に楽しかった。想像力が広がった。
※	3/4/5/6	音楽、アート、TED 風プレゼンなど、いろんなアプローチでサイエンスの世界を広げていくことはこれから非常に重要になってくると思う。
※	3/4/5/6/7	アート企画は、分子生物学が科学者のためだけでなく広く一般の人に啓蒙していく上で大変よい活動だったと思います。JAZZセッションは学会参加研究者が演奏者として演奏するという今までになかった試みでしたが、この企画がなければつながらなかった新しい研究者間ネットワークが形成できたことは日本のサイエンスを推進する上でもプラスになったと思います。2050年シンポジウムは、目の前の実験のみに集中しがちな若手研究者が、現状のサイエンスの未来への展開を見据えながら自分のサイエンスを進めていくことの大切さを考えさせられました。
※	3/4/5/7	音楽やアート空間が学会にあるというのは、サイエンスの広がりをより自由にしたように思う。2050年シンポジウムはサイエンス・エンターテインメントとして最高だった。ポスドク招聘企画によって、元気な若手研究者を学会に招くことが出来た。
※	3/4/5/7	全部は出れませんでした。2050年シンポなど楽しめました。若い人にもインスピレーションを与えるのでは。
※	3/4/6/7	3、4に関して、研究活動と芸術活動、私は近いものがあると日頃、感じていた。今年の学会会場が今まででなく潤って、研究を楽しむ原点に立ち返って、豊かな議論の雰囲気を生み出していたと思う。7に関して、海外で活躍している若手研究者の参加が、例年より多かったと感じる。ワークショップで彼らのレベルの高い話が聞けて刺激された。
※	3/4/6/7	学会には参加していないので、個別のシンポジウムに関する意見は出せないが、チェックしたのものに関してはこれまであまりなかった企画と思われ、学会の一般社会へのアピールという試みとしては、よかったのではないかと。
※	3/4/7	余裕を感じさせる階であってほしいので。海外のポスドクは、能力が高くても国内のポスドクより日本人から冷遇されているので。
※	3/4/7	3. 音楽が流れている空間があるとリラックスできて良かった。飛び入りできたらもっと良かった。4. 質の良い写真に触れる機会ができて良かった。7. 自分が海外に居たときにやって欲しかった(3年前ほど)。発表会場で一般の発表者と区別出来ると話のきっかけになるかも。例えば、番号札に印をつけるとか。
※	3/4/7	3と4しか参加していないから。7はもし自分が海外のポスドクだったとしたら、非常に助かると思うから。
※	3/4/7	会場での音楽が疲れた心の癒しになった。(一部は苛立ちにも…)サイエンスアートは面白かった(しかし関係者によく聞いてみると単なる学生の妄想の産物でしかないと聞いて少しがっかりしたこともあった。)海外ポスドクの方に久しぶりに会えて情報交換と議論をできてたのしかった。(しかし聞かなければよかったドロドロした人間関係の話に泣けた)
※	3/4/7	他の企画(例えば1、2、5、6)も、きっと良かったはず、と思うが参加できなかったので評価できません。
※	3/4/7	学会期間のうち一部にしか参加できなかったため、企画はあまり見られなかったが、特によかったと感じたのは、海外のポスドクと話ができた事でした。
※	3/6	JAZZ: 頭も体も疲労する学会において、多くの参加者と同じ立場(研究者)が奏でるJAZZは、心を癒してくれる。公開プレゼン: 一般の人向けによく練られていた。細かいDATAよりも、演者の哲学や志が伝わって良かった。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答		理由記述
※	3/6	学術講演以外のイベントが多すぎるように思う。
※	3/7	研究には柔軟な思考が必要だから
※	3/7	海外ポスドクの問題は多面的で、(海外留学を「流出」としてしまいか、「海外研鑽」となるようにするか)核心はもっと自由に行き来できるように壁を取り払う事だとおもう。人的流れが双方向になればもっと「何をやるか」などを考えられるようになると思う。その点で、7の企画には大いに賛同する。
※	3/7	目についたものについては良かった。チェック以外の企画は覗く時間が無く、感想不可。
※	4	「サイエンスとアートの接点」は優れた作品が多く、また気分の切り替えにもなって大変良かったと思います。他の企画も楽しかったのですが、全体として盛りだくさん過ぎて、かえってお互いの良さを減らしていたように思います。これらに関わった方々は本来の大会での活動(発表や情報収集)をする時間があつたのか心配します。
※	4/5	普段あまり見られないが重要な側面なのでいいと思います。
※	4/5	サイエンスの可能性を感じれたため
※	4/5/6/7	4はちょっとしたお土産によかった。5と6はかなり練られた内容のものばかりで感心した。7は、海外にいと日本の学会に参加しぬくいという話をしばしば聞いたので、良いきっかけを提供できてよかったのではないかな。
※	4/5/6/7	私は、なかなか普段考えることがないscienceの哲学的な意義、あり方などを含め、斬新的な企画が多く、参加したものについては、いずれも興味深いものと感じました。(できれば、他の企画も参加したかったのですが、スケジュールの関係でできることができなかったが残念でした。)
※	4/5/6/7	JAZZ は一カ所だけやっているのを目にしたが、あまり見かけなかった。学会中はみんな演題の発表に集中しているので、特に同じ時間に演奏するのは必要ないのではないかなと思った。演奏するなら、ポスター発表の近くが良いと思った(ポスターで立って疲れた人が休むところをねらう)。好きな飲み物を飲みながら、ジャズを聴けるなら、そんな贅沢はない。想像力も活発になって、次の研究の良いアイデアも浮かぶだろう！それ以外に企画はすべてよし。近藤滋年会長のセンスの良さに驚きました。
※	4/7	1. 官僚と話したりするのはパワーをもった人だけがいいような。3. JAZZは好きじゃない。4. サイエンスアート部門は結構チャレンジな作品が出品されていて期待度が少なかつた割には良かった。定着すれば良いと思う。5. 6最終日は都合で出席できなかったので評価なし7. これは普通にやっておけるべき。(海外のgrantは学会に行くためにextraにお金をくれたりするが、日本の助成金はそういうのが無い)
※	4/7	海外ポスドク招聘について、企画は良いと思うが、ポスター発表の場合、今回の形式では会場が広いので、一カ所に集めてあるほうが個々の人と話がしやすかつたと思う。海外ポスドクと雇用する側の出会いには、今回の形式はすこし厳しかつた。
※	4/7	アート企画だけ、参加することができた。
※	5/6	いい退屈しのぎになつた。
※	5/7	2050年シンポジウムは斬新だつた。パネリストだけではなく、会場からの質疑を受けても、プレゼンターの技量が問われて面白いと思う。海外ポスドク招へいは、国内の若手研究者に良い刺激になつたと思う。国内ポジションを得るために、海外の若手ポスドクがこんなに頑張っているというのが分かつて良いと思う。一方で、これだけの若い人たちが、職を求めて頑張っている現実を、官僚などお偉いさんに知ってもらい、ポスドクの就職難を打破してもらいたい。
※	5/7	昨今の大学においては、日々の雑用に忙殺されがちだが、研究について落ち着いて長期的な展望をもつことの重要性を再認識できたから。
※	7	海外で頑張っているポスドクに日本で発表するチャンスを提供してくれたため。
※	7	実際に海外で苦勞している若手が帰国する機会を得て、多くの後輩と再会出来ました。
※	7	リストを見てたくさんいることに驚いた。特別企画よりはワークショップの中に、これまでと視点の違う面白いものがあつたと思う。
※	7	海外にいる知り合いに会えたため。
※	7	海外のアクティブな研究室の話をも日本で聞けたので、面白かつたです。
※	7	海外の日本人研究者が多数参加されて学会年会が盛り上がったと思うから
※	7	他の企画には参加できなかったもので、よくわかりません。
※	7	招聘されたポスドク、これから海外へ行きたいと考えている若手研究者双方にとって、良い情報共有の場をもつことができた。
※	7/8	若者やマスコミにアピールするために、斬新な企画を実行した勇氣には敬意を表する。しかし、シンポジウム・ワークショップ開催時間帯に特別企画が開催されたり、ポスター発表の時間帯なのにビールを飲んでジャズを聴いている研究者がいるような時間割では、発表者が可哀想である。特にリラックス企画は、夜間か後夜祭として開催してはどうか？
※	8	これらの企画に参加していないので。
※	8	どれも見かけなかつた

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

- 質問7. 回答
- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」 | 6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 |
| 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」 | 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助) |
| 3. 「学会とJAZZの融合」 | 8. 特別企画全般について評価していない |
| 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」 | 9. 特になし |
| 5. SFTークショー「2050年シンポジウム」 | |

※	質問7 回答	理由記述
※	8	趣味を仕事場に持ち込んでいるような居心地の悪さを感じた。一人一人の研究者が、普段からそれぞれの地域社会に飛び出していけばいいのであって、忙しい中、情報収集のために集まる年会でやることはないのではないかなと思う。もちろん企画に携わった人々は素晴らしい働きをしたと思うし、喜んだ方々も大勢居ると思います。
※	8	Q6と同じ
※	8	企画が多すぎて、busy.ポスドク招聘とか、参加者から集めたお金の使い道としておかしいのではないかと「同窓会」のサポート？
※	8	特別企画の宣伝が多すぎた。研究自体が楽しいのだから研究に関連のない企画はあまり必要ないような気がする。
※	8	特にJazzはうざかった。学会をますます祭りにしたいのか？
※	8	企画に溺れた節がある。
※	8	上っ面なだけの一時的のぎの企画はいらない
※	8/9	海外とは異なり、日本では「バカであることがすばらしい」という価値観があるという指摘が従来からされています。そのような世論に迎合するような企画は自己満足でしかないように思います。アウトリーチ活動というのであれば、一般の人むけの公開講演を数多くするほうが有意義だと思います。
※	9	忙しくて自身の発表のセッション以外聞いていないので、よくわかりません。
※	9	年会に参加していないので何ともいえない。
※	9	参加しなかったので評価できない
※	9	まったく予算の無駄である
※	9	全体的になんかがっかり。むしろM2の発表練習会の場としてとらえなおし、組み直してもいいのではないかと
※	9	見ていない(聞いていない)ので評価不能。
※	9	学会に参加しておらず、自分自身で見ていないので。
※	9	参加していないのでなんとも
※	9	自分自身は学術講演しか興味がないが、それ以外のことを学会が試みるのは否定はしません。
※	9	シンポジウム、ワークショップのレベルが低下しているように感じる。
※	9	1は興味ありますが、仲間内でも出た意見ですが、動画配信されたところで時間をかけて見ようという気はおきません。お手数だとは思いますが、まとめをテキストや画像ベースでわかりやすく配信されるとありがたい。是非、成果の宣伝も熱心にしていただければ。正直なところ、他のもともと興味ある内容以上に心ひかれるということはなく、それだったら今のうちに気になるポスターを見に行ったり、次の予定に移動してしまいました。3, 4のアート関連は好みということになると思います。初めての企画が多かったので、徐々によいものにしていけばよいと思います。
※	9	「薬を創る」は多くの聴衆がおり、マスコミもその盛況を伝えましたが、残念ながら企画と実践内容に工夫が欲しかった。かつ、眠ったり喋ったりと聴いていない聴衆が従来の同等の企画と比べ顕著に多く、期待と異なる印象を持つ参加者は少なくないのではないかと。
※	9	年会に必要な。
※	9	すいません。他のものと重なったりして、ほとんど参加していません。
※	9	参加していないので分からない。
※	9	都合により特別企画には参加できませんでした。
※	9	若者はもう少ししっかりしていると思う。また、おじさんが頑張って若者目線にしているようでいたい。
※	9	申し訳ありません。出席したものが多くないので評価は差し控えていただきます。
※	9	特別企画に参加していないので、評価できません。
※	9	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	9	結局どれも興味が持てず、見なかったの。
※	9	特別企画に参加していないの。

質問9. ITシステム全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	共同研究のマッチングなんかも出来ませんか？
※	参加していないので分からない。
※	アクセスが集中するためか、システムが動かない時間があった。その場合は要旨集に頼った。
※	毎朝、本日のトピックをメールでお知らせいただいたのはとても参考になりました。
※	非常に使いやすかった。すばらしい
※	良かった。しかし彼氏彼女募集中ボタンは必要ない気がする。
※	要旨がすぐに見られるのはとても良いと感じました。スケジュールリングの機能など充実して欲しいです。
※	参加していないので、ITシステムについては感想なし。
※	印刷体の要旨集をなくしたのはよかった。目次だけの冊子を配ったのもよかった。何もないと困ると思う。会場に行けばWi-Fiが使えるので、会場に長めにいた気がする。
※	「電子ポスターマップ」は分かりにくかった。演題の一覧から要旨PDFを閲覧できるようにして欲しい。
※	likeの数と研究発表の内容を比較するのは色々な勉強になるので、続けて欲しいです。
※	利用していないので評価不能。
※	不便だったが、世の流れ的にしょうがないのかなとは思う。
※	PDFであれば、目次を作って跳べるようにして欲しい。eBOOK形式でも良いのでは？全部が1ファイルで、めくれ、該当ページにすぐとべる、などができるほうがよい。
※	良かったと思います。
※	各演題の「secret like」は改良すべきである。名前はsecretでもいいが、クリックした場合全体的な「like」の数には加えるべきではないでしょうか？多くの方がクリックしても見た目は数が増えていないので、人気が無いように見えるのは良くないと思います。もし数自体も隠すのであれば、このシステム自体がいらな気がします。
※	キーワード検索が粗いと感じた。例えば、「動物」というキーワードで検索すると、「動」と「物」を含むページが全てヒットする。あと、大学などの所属でも検索できると便利だと思った。
※	オンラインだと重い紙を持ち歩かなくてよいため非常によい。オフラインは完全に廃止しても良いと思う。将来的には、ポスター発表も紙を貼るのではなく、USBのデータを入れるだけでディスプレイで発表できるようになると動画等も動かして便利。
※	演者の索引がないのが非常に不便だった。「like」のボタンは不要と思う。
※	likeをおした演題がまとまるのはよいが、数が小さいものからの順番にならないので見て回るには不便だった。
※	検索機能がもっと充実していたら良かったと思いました。例えばある特定の日、ポスター・口頭発表の別ごとに、キーワード検索がかけられたら良かったです。
※	どこにいても非常に繋がりがよく、分厚い要旨集を持ち歩かなくても不便さを感じなかった。
※	今回参加していないので、使用感は分かりませんが、IT化が進められているのは良いなと思います。
※	とても便利ですばらしいと思った。
※	所属名での検索ができた方がよい。secret like の数がわかるようにして欲しい。
※	スマートフォンを持っていない人間は不便だった。
※	likeやスケジュールに入れたポスター演題を番号順にソートしたい。
※	「彼氏・彼女募集中」などの機能は不要。遊びの要素はあってもよいのだが、ITシステムに限らず、今年は全般的にやり過ぎだと思えます。
※	・フリーワード検索の結果がおかしくて使いにくかった。ユーザが入力した検索キーワードを形態素に分けないほうがよいのでは。・PDF版の要旨集を公開していたが、学会が終わっても手元に保存しておける点で良い。
※	like ボタンは良かったです。研究者間の相互作用を促したのではないのでしょうか？また、自分の演題がどれくらい興味を引きつけているのか、ある程度わかりました。
※	冊子版を全国大学図書館宛に資料として配布しておくことも重要ではないかと思う。
※	昨年の福岡のシステムの方が良くできていた。
※	PC以外にIT化されていないもので、ちょっと不便な感じがしましたが、私もスマホが必要ななあ。そういえば、タブレットを持っている人も多かったなあ。
※	2012年度の方が、システムが分かりやすかった。Myスケジュールで選択したポスター演題が番号順に並ばず、非常に使いづらかった。
※	慣れていないためか、戸惑うことが多かった。
※	トップページに雑多な情報が多い感じがした
※	注目企画は毎日号外を出すとか、紙ベースのものは工夫あってもよいかなと思います。
※	検索画面がトップページに欲しかった。もう少し、ポスター演題などに引き込む工夫が欲しかった。
※	likeで個別に選択した演題に会場が書かれていなかったのが都度、日程に戻る必要があったのが面倒だった。プログラムのコードに会場番号を入れるとか工夫してほしい。
※	学会の要旨に関しては、オンラインソフトの運用期間が過ぎると確認出来なくなるので、データを総体をダウンロードできることは重要。でなければ、2年くらいはアクセスを確保して欲しい。
※	ブラウザにより表示がおかしくなることがあった。Firefox(ver.24)では表示されない部分が多々あり、紙媒体でのプログラムが無かったため非常に不便であった。昨年の分子生物学会ではそのようなトラブルは無く、今年度に限った問題であった。
※	ポスター演題投稿する際、最終版(タイトルや著者名なども含む要旨)を表示できるようにして、確認してから投稿するよう変えてもらいたい。
※	35回年会比べて、36回年会のホームページにはITシステムの説明が少なかったように感じます。

質問9. ITシステム全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	キーワードや講演者名をひとつひとつ入力するのではなく、冊子体の用紙集をぱらぱらめくる感覚で、参加者や要旨を斜め読みできるようなものが欲しい。例えば、参加予定の知人が居るのか否か、いつどこに演題を出しているのか、巻末の索引でざっと様子が把握できるようにしたい。(ポスター会場で知人達とそのような話題になった)
※	やはり、電波環境の悪いところで場所や演題を探せる仕組みも大事と思いました。
※	必要な情報のみを簡単に見ることができるシステムが望ましい。likeボタンはいらぬ。
※	「secret like」をポチっとしたとき、「誰が like を押したか分からないけど、押してくれた総数は分かる」というシステムになっていれば、より良かったのではと思います。
※	参加していないので、評価せず。
※	時代の流れかもしれませんが、IT機器を持っていない人は何も調べられないというのもどうなのでしょう。
※	参加していないので分からない。
※	Likeを押さないスケジュールに追加できないのは不便に感じた。
※	メールシステムが事実上、機能していなかった(メールを送っても相手が気づいていない??)。
※	likeボタンを押さないスケジュールに入れることができず、不便であった。likeボタンは不要である。
※	込んでいるのか、電波が悪いのかで、つながらない時が時々あったが、接続はおおむね良好だった。
※	自分はそのシステムをあまり上手く使いこなせていない。
※	現状はキーワードなどで検索できる程度でよい感もあるが、その他、いろいろ工夫してみるのも貴重な努力と思う。
※	全体的にシステムは使いやすかった。ポスター発表演題のみのPDFファイルが分割され過ぎていたので、工夫して頂きたいと思います。
※	会場では、英語画面しか表示できず、自分の操作ミスなのか、OSやブラウザの問題なのか、そういうものなのか、確かめるすべがなかった。
※	どこでもwifiが使えたことはとても良かった。継続していただきたいです。
※	会場が分散しすぎ。そのせいでITシステムを使う気が起きない。
※	著者検索、キーワード検索ができなかったのが不便だった。
※	IT(iPadやスマートフォン)を使用しない者にとっては非常にわかりにくい。
※	1)検索機能を強化してほしい。キーワードを入力して検索しても、目的外の検索結果があまりにも多すぎる。2)Wi-Fi環境が整っているのだから、オフラインで利用できる「アプリ」までは必要ないと思う。それよりも端末を持たない参加者への配慮をしてほしい(携帯電話のインターネット機能を利用して要旨閲覧システムを利用したが、演題の検索はできたものの要旨本文が閲覧できずがっかり)。
※	1と2はあってもなくてもどちらでもよいと思った。ITシステムを導入することには賛成。
※	現行のオンライン要旨は是非とも続けて欲しい、某学会のスマートフォン/タブレットアプリとは雲泥の差。名前やキーワードだけでなく、所属でも検索できるようにしてほしい。secret likeの試みは良いが、その数を表示してはどうか。直感的に使えるが、直感的に出来ない人のためにマニュアルを用意してはどうか。それぞれのabstractなどに簡単なメモを記入したい時があるのですが、実装は難しそうですか？参加者がどんなデバイス(スマートフォン、タブレット、PCなど)を所持して、何を使ってオンライン要旨を見ていたのか、その辺の統計はありますか？
※	PHSかつフィーチャー・フォンなので恩恵がなかった。
※	各演題者がログインしてシステムを利用しているのか、が分かると思った
※	前年度よりさらに良くなっていた。コミュニケーションがとれる形が継続されているのが大変よくできていて、知り合いが増えた。マンモス学会は単に知り合いと話だけ・・・という埋没感が常につきまとう学会ですが、連絡をとりあえただけでトークの感想が聞けたり、これまでになかった繋がりが生まれました。最終的には生身の人間に繋がる仕組み、これこそ大きな学会の価値だと思いました。Likeは、連絡をとるきっかけになった。
※	恋人募集フラグの前に、共同研究者募集フラグの設置が先でしょ。バカじゃないの？
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	建物を移動するたびに接続直すのがやや不便で、オフラインもあると良いと思いました。ポスターの条件検索機能も充実してもらえるとありがたいです。
※	著者索引が簡便にできると良い
※	前年に引き続き、この試みはとても良かったです。自分のスケジュール管理にも役立ちました。前回のシステムを改善しているのも良かったです。今後もどんどん発展させていってほしいと思います。
※	ITシステムは浸透に時間がかかると思われるが、かなり便利であったので継続してほしい。
※	今回のような取り組みは、いろんな意味でよかったと思う。学会には参加できなかったが、各種情報が毎日メールで来るなど、ある程度学会の臨場感が味わえた感じがしたことは、大変よかった。このような取り組みは、今後もある程度継続していただけたらと思う。
※	無線LANの使用できる場所が限定されすぎて、正直不便だった。せめてホテルの廊下など、発表会場間の通り道で無線LANが使用できると良かった。無線LANが用意できないのなら、上記のように、オフラインで利用可能にして欲しい。
※	マイスケジュールのポスターの部分の演題番号順にすることができなかった(やり方があったのならば、そのやり方を見つけることができなかった)。
※	検索の選択肢は増やして頂きたいと思います(所属など)。
※	オフラインは使っていないが、オフラインで同じ機能があるならオフラインでも良いのでは。端末1台とは限らないので、何らかの方法で同期できるシステムは必要と思う。
※	スマホやタブレットを持っていないものにとっては置いていかれた気分です。でも将来的にはどんどんこういうシステムになっていくのでしょう。

質問9. ITシステム全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	<p>スマホ(実際にはiPod touch)で見するには相当つらく、特にポスターマップから見たいポスターの要旨に辿り着くまでに苛ついていました。PCからスマホまでカバーできるシステムを作るとは諦めてもよいかもしれません。IT化自体には賛成で、一昨年以降どこからでも年会サイトや他にアクセスできるようになったメリットは大きかったです。</p>
※	<p>ITシステム化することは非常に重要だが、今年のは見にくかった。去年のほうがよかった。逆にWiFiのアクセスについては、今年のほうが圧倒的にスムーズでサクサクつながってくれたので使いやすかった。去年は重かった、、、、。</p>
※	<p>すいません。いろんな発表を聞くのに忙しく、有効利用していません。基本的に賛成です。</p>
※	<p>ITシステムの利用は非常に良い。検索もキーワードや人物名でできて、非常に便利だった。もう紙の時代は完全に終わったという感じである。ただ、欲を言えば、人物名(発表者名)から Pubmed にアクセスして、最近の論文が参照できればベスト。やっぱり良い研究発表を見ると、これまでのその方がどんな論分を出しているかを知りたいと思う人は多いのではないか。</p>

質問10. 本年度プログラム集の軽量化について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ポスターの題目だけでも一覧にしてもらいたい。厚さの点で問題なら、シンポジウム等の要旨を無くしてもいいかと思う。
※	iPadなどの進化を待たなければなりません、冊子版はいずれなくなると思います。今回に関しては冊子は必要で、出来ればポスターのタイトル一覧も欲しかったです。
※	個人的には冊子にいろいろ情報を載せてほしいが、予算との兼ね合いなのでやむを得ないと思う。
※	タイトルと著者は、シンポジウム、ワークショップ、ポスター発表にかかわらず、目次つきの冊子にしたらと考える。
※	ポスター発表を重視するべきと思う。口頭発表のみの要旨集には興味がわかなかった。ポスターのプログラムを省略するならば、会場に一覧を掲示したらどうか。
※	pdf版をもっとダウンロードしやすくしてほしい(一括ダウンロード)一部抜けているものがいつもある
※	演題名のみ乗せたリストとして別版があると便利だと思いました。要旨はオンライン検索でよいと思います。
※	電子版は見ないので、一度に多くの要旨を見ることが出来る従来の姿に戻すべき。
※	見て回上でポスターの演題は欲しかった気がします。
※	オンラインのプログラムから自分の興味のある演題をピックアップして、印刷しようと思ったが、昨年ほどうまくいかなかった。アウトプットできる内容も、演題だけ、あるいは要旨も、あるいは所属は印刷しないなど、自分でカスタマイズできるとよい。今年度のものできたのかな？
※	オンラインシステムが使いやすかったので、プログラムの情報が少なくとも不便さを感じなかった。
※	冊子が無いと、不便ですし、ポスターのステイタスが下がったように感じました。ポスター分は分冊として、携帯するかは会員の判断に任せられるようにするのもありかと思います。
※	スマホ等を持っていなかったため、IT化が進んでしまうと、色々と不便な点があった(なので、急遽、スマホを購入した)。よって、希望者にはポスター演題プログラムの冊子版を配布する等をしないと、困る人もいるのではないかと思います。
※	著者索引はなんらかの形で復活させてください。
※	個人的には、PDFがあれば紙の冊子は不要。大量の冊子が毎年捨てられているのは勿体ないですね。冊子版は、欲しい人にだけ実費で販売すればよいと思う。
※	事前さんが登録していない場合に閲覧できないなら、掲載すべき。
※	今まで重さ・大きさゆえに邪魔に感じていた要旨集。それがオンライン化されればかなり良いと考えていた。しかしながら、意外にも、オンライン化されたら、逆に要旨を前ほど見なくなってしまった。私の周囲の研究者も同意見が多く、“いつでも見れる”と思うと、読まなくなってしまうものなのかもしれない。少し利便性について考えさせられた。
※	ポスター演題プログラムと著者索引はあったほうがよいと思いましたが(特にポスター演題のタイトルだけでも)、意図した用途は一覧として見るだけなので簡略版でよいと思います。例えば筆頭著者だけに、所属は載せない、あるいはタイトルのみ、といった形でもよいかと思います。
※	ポスター演題プログラムを今回のようなプログラム集と別冊にしても良いと考える。必要な人は持っていきだろし、必要ない人は持っていかないから。
※	アナログ人間にも配慮して下さい。また、1年後に講演プログラムを事務方から求められる場合もありますので、紙媒体を残しておいた方がいいこともあります。
※	メモ用の余白がほしい
※	軽量化は支持するが、その日に行われるワークショップ・ポスター発表などの「一覧(著者名とタイトルだけで良い)」が、パッと目に見える形でウェブ上に欲しかった。PDFファイルはダウンロードして開かなければならないので、使い勝手が悪い。
※	プログラム集は学会参加者(参加費を払った会員)にのみ送ればよいと思う。学会会員全員に送る必要はなく、プログラム集のみ欲しい人も費用を負担すべき。
※	PDF版はこれまで通り配布。その他に、上記Q9のようにPC、iPadやスマートフォンで「会場を歩きながら要旨集をめくって読める」ことが簡単かつ探しやすいようにしてほしい。
※	iPADの類を持っていないものにとっては、矢張りポスターのプログラムが無いのは不便であった。
※	オンライン版が極めて優秀にできているので、冊子版はもはやなくてもよいと思う。
※	SfNの様にアプリでプログラム集を配布してほしい。
※	30代までは電子版のみでOKのようで、50代以上のボス達は全員が冊子を持ち歩いていた。従って、徐々に移行していくのが望ましいと思われる。
※	ポスター演題がどこにあるか当初わからず、苦労しました。冊子はなくてもいいとは思っているのですが、でもやはりばらばらと総覧するには冊子体のほうが便利ですね。
※	ポスター演題の「要旨」は冊子に必要ないと思います。
※	恐らくPDF配信のみでOKです。
※	結局、ポスター演題は印刷してしまった。
※	一般発表軽視とも取れますね。
※	各ポスタープログラムのPDFを1つのフォルダに格納して、一括ダウンロードできるようにしてほしい。1ファイルずつダウンロードするのはとても煩雑だった。
※	今回の冊子とは別にポスター演題プログラムのみ記載した冊子が欲しい(合計2冊)
※	もっと削れるのではないかと。いくらこの印刷にお金を使っているのかと考えるとぞっとする。冊子体は各自プリントアウト、あるいは会場で必要な人にだけ配るという形をとれば良いのではないかと。
※	ウェブの要旨検索システムが古いOSだと利用できないと言った問題があったこと、スマホやタブレット型端末がないと会場でもできないというのは不便と感じたので、可能であればいろんなところに、無料PCを設置してほしい。プログラム集の軽量化自体は支持します。

質問10. 本年度プログラム集の軽量化について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	完全電子化が良いです。紙の消費も輸送によるエネルギー消費も減らせますし。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	今回の形態でほとんど大丈夫ですが、ウェブで閲覧できる時間を、開始も終了も、もう少し長くしてほしいです。閲覧可能時期の開始を早め、終了を送らせてくれると、助かると感じました。
※	ITシステムに便利な面があるのは認めるが、だからといってプログラムの冊子を削るとか言い出したやつはアホじゃねえのかといたい。たいていの場合、学会会場ではITと冊子のうち使い慣れたどちらか一方を使用すると思われる。全ての学会員のニーズを満たすにはどちらも必要なものなので、来年以降はぜひ両方とも完全なものを用意して欲しい。
※	電子版では発表した証拠が残らないので大学への報告の際に困る。電子版をプリントしたものであれば偽造するのが容易であるので証拠にならない。冊子版には全タイトルと著者名、所属名を掲載したものが必須である。
※	ポスター演題の一覧を記載したガイドを会場で配布するとよいのでは。ポスター会場が複数に分かれていたため、関連する演題でも違うカテゴリーで発表されていると気づかないものが多々あった。
※	ポスター発表の一覧が載っていて欲しかったと参加した大学院学生から希望があったのは事実です。
※	ipadを所有しない人も多いので軽量の冊子版は必要だろう。
※	だいたいよかったのですが、チェックしたポスターの位置だけでなく、要旨もすぐにまとめて確認できる機能等がほしかったです。なんとなく聞きたい→要旨チェック→同じ時間帯で聞きたいものを選択するという作業がしにくかったです。また、ポスター発表会場が大きく2カ所に分かれ、距離が離れていたため、コアタイム中に移動が間に合わない時がありました。
※	Webでの検索が軽くてよかったので、軽量版を支持する。初めに軽量版が届いたときは、これで大丈夫かと不安になった。
※	シンポジウムとワークショップの演題だけ冊子にしてポスターを掲載しないのは、ポスター発表を軽視してる？ポスター発表も立派な発表であり、年会の核となるものだと思うので、シンポジウムやワークショップと並列に扱ってほしい。
※	ポスター演題プログラムは別に印刷して持参したので掲載して欲しかったのは事実ですが、それよりも軽くなったメリットが大きかったです。
※	ITシステムではポスター発表全体を把握し難く、実際、ポスター会場での人数が例年より圧倒的に少なかったと思います。数が少ない口頭発表はITシステムで把握できましたが、ポスター発表は発表数が圧倒的に多く、また、関連発表が複数日に渡るため、発表タイトルと発表者名(所属)だけを紙媒体で配布する必要性を強く感じました。また、IT検索では設定したキーワードを含む発表しか出てこず、関連分野の知識が広がらなくて退屈でした。ポスター発表タイトルの紙媒体があれば近辺の関連分野も自然に目に入ります。なお、要旨はITで読めば十分です。また、今回のIT検索システムが分かり難くて苦労しました。改善が必要だと思います。
※	ポスター演題プログラムを冊子版に掲載するのは必須だと思います。今回ポスターを見て歩くのにすごく不便でした。参加者の多くはポスター発表者ですので、ポスターを軽視するのは良くないと思います。発表の記録(及び記憶)としても必要です。重くなる問題は「少年ジャンプ」のような紙でやれば解決できるのでは。
※	ポスターをもっと活発化させるために1つの良いアイデアがある。ポスターと口頭発表の連携が必要だと思った。それは研究室のポスが口頭発表した後で(その日か明る日)その研究室のポスター発表をもってこるといふものである。これは、ほとんどの聴衆者は口述発表を聞いた後で、その内容を詳しく知るためにポスター会場におもむく場合が多いと考えるからである。(今回のITシステムの導入で、研究室のポスがどんなポスター発表をもっているか検索が容易になったのが功を奏している)これは私が実際に経験したのだが、最終日(4日目)に興味を持った口頭発表があったが、そのポスターはすでに1日目に終了していたのがっかりした。これをなるべく防ぐには、口頭発表とポスターの連携が必要であり、今のIT技術があれば、ポスター発表の順番を決めるときに、このことを考慮に入れればよいと思う。

質問11. シンポジウムについて（その他）

※	その他記述
※	メンバーに不満があるわけではないが、選考過程や倍率が完全なブラックボックスなのは改善できないのか。
※	なんというか、はやりのテーマに偏っている感がある。とはいえ、では何がといわれると難しいのですが。
※	Q6でも答えたが、分子生物学会は非常に多くの専門性を持ち備えたメンバーが存在する集団となっていると思うが、その割にはシンポジウム・ワークショップ共に演題数や取り扱いに傾斜がかかっているように思える。もっと新しい分野を広く知らしめるための機会として、より多くのテーマを用意した方がいいように思った。
※	癌学会、細胞生物学会と重複しているような印象があります
※	十分議論できるようにシンポジウムの時間を6時間とかに長くすべき。
※	人気の偏りが多く、エビジェネのセッションなどは入りきれないほどの人でした。事前予測や事前アンケートなどで、参加者の動向をできるだけ把握して部屋の広さを設定いただけるとよいかと思えます。
※	出口志向のテーマが大きな会場なのがいいのだが、、、基礎分野の開場が場所によっては狭すぎて、入場できない場面に遭遇した。
※	中には、もう少しとつきやすいテーマがあっても良いかと感じた。有名どころや出世欲が強い(悪いことではない)若手中心だけでなく、まったくとしたシンポジウムも必要な気がした。
※	その分野で功成名を遂げた、偉い先生の話を知りたいです。当時の状況(学界の通説)、発見のエピソードや、発想の原点、その発見により研究がどのように進んで現在どのような状況なのかなど、勉強になります。普段は他分野の先生の話聞くチャンスがないので。以前は、このような企画があったと思うのですが、復活を希望します。
※	片寄っているとまでは言えないが、例年に比べてcell biologicalな瀬シヨンが少なかった。
※	シンポジウム、ワークショップ、一般演題、ポスターすべてに於いて共通に言えることは、発表内容に新鮮さがなく、聞き飽きた。内容が殆ど見なくても予想できる。
※	幅広い分野の研究者が集まる会なので、異なる専門分野の研究者にもわかりやすい研究発表となるよう、さらなる工夫が必要と思われる。(各シンポジウムの第一演者の発表時間をもっと長くするなど)
※	興味がある2テーマがある時に会場が遠すぎて2会場間の移動が無理な時は泣けた。
※	シンポジウムもテーマも公募で行なうべきだった。
※	偏り過ぎ。いつも同じ方が企画されていて面白みにかける
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	部屋が狭く、聴講者が部屋に入りきれないケースがあった。以前の学会であった、「別室で中継する」システムがあるといいと思う(録画されるなどの危険があるため配慮が必要だと思いますが)。可能でしたら、それぞれの別室はまとめて頂けると、移動時間が短縮され参加者としては楽です。
※	テーマ自体は適切だと思いますが、〇〇××企画という表記に違和感を感じました。プログラム委員会を務める先生方が責任を持って演題をセレクトしたということと思いますが、同時に「一部の人間だけで仕切っている」という印象も受けました。
※	興味深いテーマが多かった。満員の会場が多く、適切なサイズだったと思う。
※	毎年同じようなテーマ、同じような顔ぶれ、同じような発表
※	ワークショップとの区別がつかない狭い範囲のテーマが多かったと感じました。シンポジウムでは、もっとその分野の概要が把握できるような広いテーマを扱って欲しいと思います。
※	シンポとワークショップの違いがよくわかりませんでした。並立は良くないのでは。
※	基本的に英語の発表はわかりづらかった。分生は国際学会というわけではないので、そんなに英語発表にこだわらなくても良いのではないかと。外国の方の演題ならともかく、あるシンポジウムでは演者がすべて日本人なのに、英語ですべての発表をしていた。これはあまりメリットがないとか、むしろデメリットが大きいのではないだろうか。外国人の発表の時だけ英語にするというので良いのではないかと思う。あくまでも分生は「国内」学会であり、国際学会ではないと思う。

質問12. ワークショップについて（その他）

※	その他記述
※	メンバーに不満があるわけではないが、選考過程や倍率が完全なブラックボックスなのは改善できないのか。
※	数が多すぎる
※	テーマが偏っている
※	Q11と同じ。
※	毎年同じような人が企画しているので、偏りがないように配慮するべきだと思います。
※	上記と同じ
※	セッション数はやや多い。テーマは、シンポジウムも含め、系統的に必要と思われる分野を依頼するのと、公募するのを両方やる必要がある。
※	ややテーマに偏りが見られた。聞きたいテーマがあまり見つからなかった。
※	もっとセッションを増やして欲しい(30会場くらい)
※	数は適当と思うが、聞きたい複数のワークショップが同日、同時間になっていることが複数回あり、テーマの関連した分野はばらして欲しかった。
※	ワークショップでの発表は一般演題からも選ぶべきだと思います。
※	十分議論できるように時間を6時間とかに長くすべき。
※	学会だから当たり前ですが、少し専門的すぎて他の分野を聞くのが厳しい。分野が少し外れている研究者にも参加を促すような、基礎的レベルからの話で構成されているプログラムもあれば良いと思いました。分野の選定が難しいかもしれませんが。
※	人気の偏りが多く、エビジェネのセッションなどは入りきれないほどの人でした。事前予測や事前アンケートなどで、参加者の動向をできるだけ把握して部屋の広さを設定いただけるとよいかと思います。
※	自分が参加したセッションは立ち見の人が結構多かったので、座席数がもう少し増やせれば(あるいはセッション数が多ければ)良かったと思います。また、もしスクリーンを一部屋の中に数ヶ所設置することが出来るのであれば、とても見やすくなると思いました。
※	もう少し数があっても良い。
※	17時近くになると、既に帰り支度のブースが多く、遺憾に感じた。
※	辺境の狭い部屋にドットと人が集まる場合が少なからずあるのですが、今回の発表では、人の移動統計は取れているのでしょうか？そのようなデータがあると、次年度に反映できると良いですね。
※	興味本位で聞けるワークショップもあったのでおもしろかった。実はそれが結構ためになったりした。
※	会場が狭く立ち見になったセッションがいくつかありました。そのような場合はモニターを準備し、外でも見られるようにしてはどうでしょうか。
※	植物科学の研究者の居場所が少なく感じた
※	植物やマイナー生物の話が少なく、ますますお医者さんのための学会になったような印象を受けました。
※	一般演題から選ばれることがないのは、非常に閉鎖的でよくない
※	タイトルと内容が離れています。
※	幅広い分野の研究者が集まる会なので、異なる専門分野の研究者にもわかりやすい研究発表となるよう、さらなる工夫が必要と思われる。(各ワークショップの第一演者の発表時間をもっと長くするなど)
※	シンポジウムで最先端研究をグローバルに展開している先生方が発表されるのなら、ワークショップは学生や若い研究者の発表を増やすとよいと思う。
※	公募を復活してはいかがでしょう。
※	ポスターから口頭発表(一般講演)に採択されるシステムを採用しなかったのが、今回発表しなかった大きな原因。仲良しグループがワークショップを組む為には便利だが、一匹狼のような研究者は口頭発表の機会が与えられない。少なくとも回答者はこれまで口頭発表希望のエントリーをした際には必ず選ばれる程度の発表内容を提供している。
※	興味のある企画、分野の近い企画が多く、例年と同じように時間帯が重なって参加できないことがあった。一方で、発表者数が多いので仕方ないかもしれないと思います。
※	学会員からの提案を最大限尊重すべきである。できるかぎり専門外の委員が会員からの提案を損ねるような調整をすべきでない。学会員を信じてその希望を実現させるのが学会の役割。これを誤解している人もいるのでは。
※	植物分野が著しく少ない。その点で偏っている。
※	公募なので分野間の格差があり過ぎ。また、講演者を確定しているため、さらに格差が拡大している。少なくともoral pick upは入れるべき
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	ワークショップに類似のセッションが多すぎる。類似のセッションは減らし、一般演題からの口頭発表の枠を確保すべきである。
※	英語のワークショップを増やした方がよい。よい発表があるだけに、日本人以外の参加者には少し申し訳ないと感じた。
※	部屋が狭く、聴講者が部屋に入りきれないケースがあった。以前の学会であった、「別室で中継する」システムがあるといいと思う(録画されるなどの危険があるため配慮が必要だと思いますが)。可能でしたら、それぞれの別室はまとめて頂けると、移動時間が短縮され参加者としては楽です。
※	テーマはよいものがあるが、数が多すぎて聞きに行けないものが多数出た。

質問12. ワークショップについて（その他）

※	その他記述
※	<p>テーマ・セッション数ともによくないというよりも、そもそもオーガナイザーが適当でないのではと思われるセッションが多く見受けられた。加えて、現在の自分の研究を客観的に判断できない(方が多い)のか、正直、オーガナイザー(のラボ)の発表は他の発表者の内容に比べて質的にかなり落ちるものが多かったので、発表を聞きにきた学会員をがっかりさせないためにも、オーガナイザーは発表者の人選だけに専念して自分の発表は控えるべきだと思う(実際、オーガナイザーの発表がないセッションもあった)。オーガナイザーの適切な人選をせつに希望します。</p>
※	<p>植物関係がなかった、、、</p>
※	<p>方法論に関するワークショップもあってほしい</p>
※	<p>スケジュールの都合でほとんどを見る機会がなかった。今後はシンポジウム/WSの数を減らしていくべきと思う。</p>
※	<p>準備は大変かもしれないが、一般からの公募もあったほうがいい。</p>
※	<p>ただスピーカーを集めただけ、のような企画がいくつか有りました。何を問題点として、議論するのははっきりしていません。</p>

質問13. 一般演題について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ポスター会場が離れすぎているのが大変でした。
※	ポスター会場が離れているのは不便である。全部を見ることができなかった。
※	ポスター会場が分かれているのはとても不便であった。不便に分けるメリットをどうやっても思いつかなかった。総合討論の時間を作っていたが、ほとんどはがして帰ってしまっていて、意味がなかったと思う。2日間連続して掲示するのが良いと思います。もっと狭くして、2日おきに交換するのが良いと思います。
※	ポスター発表のフリートーク(最後60分間)でポスターを剥がして変える人が多かった。
※	ポートピアホテルの一部会場は国際展示場から遠く行きづらかった。やはりあの演題数のポスター数ならば、場所は一つの場所にまとめてほしい。
※	自由討論の時間が必要なのはわかるが、全体として3時間は長すぎる。3時間たちっぱなしなわけで、、、結局最後までいなかった。
※	たまたまかも知れないが、聞きたいシンポジウムやワークショップが重なることが多かった。逆に、あまり興味のないテーマばかりの時間帯も多かった。近いテーマは日時をずらすなどの工夫が必要かも知れない。あれだけの数のポスターがあるので、ポスター討論はもっと長くすべき。混んでいるポスターの演者が、最前列の一人に向かってではなく、集まった全員に向かって大きな声でプレゼンする様に、年会委員会からも強くアナウンスした方が良い。
※	ポスターを貼る時刻を守らない演者が多すぎます。
※	時間割はともかく、ポスターを午前中に貼っていない割合が多いのは問題かと。
※	ポスターセッションの時間が長過ぎる。
※	ポスター会場が分散して非常に不便でした。
※	神戸展示場のワークショップ会場は天井が低く後ろからスライドが見えないのでやめてほしい。またポスター会場が離れているのも不便なので会場間の移動は出来れば徒歩一分圏内にしてほしい。
※	ポスター会場をひとつの場所にまとめてほしい
※	ポスター会場が三ヶ所に分けられると回り切れないのでひとつの建物にまとめるようにして欲しかった
※	学生のポスター発表の質の低下が目立った。
※	複数のポスターの会場が互いに離れ過ぎていた。
※	ポスター討論の時間帯は終了前にするしかないのですが、見たいものを見るには1時間は少ない気がします。1時間半はあった方が良くと思いました。
※	ポスター会場が3会場に分かれていたこと、さらに展示会場が分かれていたのは、やや不便に感じました。
※	離れた場所にもポスター会場があり、発表時間内にそこまで回れなかった。ポスター会場はなるべく近い場所にして欲しい。
※	ポスター会場は複数に分けず、近接して欲しいです。NBRPなどの特別企画もポスター会場内の方が、研究としては話がしやすいです。
※	ポスター発表の場所は一箇所にまとめるべき。
※	ポスターの議論時間が短い。回りきれない。
※	おそらく沢山の同意見が寄せられると思いますが、ポスター会場が離れすぎていました。
※	今年は例年より、時間の重複がシビアだったのが残念に感じた。ポスター発表に少し遅れてしまった。
※	広くて(ポスター会場の距離があつて)、見たいものをすべて見聞きすることができなかった。
※	発表時間を守ってほしい。隣で同時にやられると聞こえない。主催者側が厳密にチェックするべき。
※	ポスター会場1が離れていたのは、いただけない。
※	ポスター会場同士が離れすぎて、皆さん、うんざりしていました。
※	時間が無くて、あまりたくさん見聞きできませんでした。
※	ポスターに座長を付けてポスター前でショートトークをする形式を癌学会では行っているが、取り入れられないか？未だに貼りっぱなしで居ない人や、一人の人と話し込んでいて聞きたいのにずっと待たなければいけない現在の形式には不満。
※	プログラムの編成、日程振り分けより、ポスター会場の振り分けが不適切である。会場群の端と端にポスター会場を設定したのは、今回の学会運営で最大(しかし唯一)の失敗であったと思われる。
※	ポスター会場が3カ所にわかれていること、さらにそれらが離れた場所にあったことが非常に不便であった。企業展示ブースも同様。この点に関しては去年までの方が利用しやすかった。また、オンライン要旨検索システムは非常に良く、今後も継続してもらいたいが、アプリを開発してオフラインでも使えるようにしてもらいたい。また、マイスケジュールが見にくかった。去年のアプリの方が使いやすい。
※	ポスター会場が離れているのが不便だった
※	最近は大学業務がタイトで期間内に一度戻る場合がある。ポスター討論の時間がもう少し早いと、遠方からの参加者は助かる。他学会で見かける「ポスターから若手や学生を口頭発表に優先して採択し、発表賞を設ける」には強く反対。全国規模の学術集会を、口頭発表の練習や、賞を乱発する場にしてはならない。ただし、実質的なチームリーダーや同等の議論のできるポスターや学生の口頭発表によるセッションならば、発表者と聴衆の双方に意味がある。
※	ポスターは3時間採ってあったが、2時間で説明が終わったところで、ポスターをはがしてしまう発表者が多かったのは残念である。これだけの数を見るには3時間は必要である。最初の1時間を説明無しで見回る時間として、最後の2時間を説明者が張り付く時間にしてはどうか。
※	ポスターからの口頭発表への採択システムは、無用にセッション数を増やしスケジュールをタイトにするだけなので今後も復活させないでほしい。
※	シンポジウム、ワークショップ、ポスターセッションにフルで参加すると、企業展示やデータベース展示に行く時間がなかった(実際行けなかった)が、それが目的ではないので現状のプログラムで満足。

質問13. 一般演題について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ポスターの盛り上がりがかけていたように思います。時間帯を中の方に持っていったほうが、いろいろな方が来て良いのではないかと思います。あるいは、2回目の討論の時間をあとの方に設定するとかですかね。
※	参加していないので分からない。
※	ワークショップやシンポジウムと重なっていたので、研究不正問題フォーラムにあまり出ることができなかったのが残念。
※	ポスター会場同士が離れ過ぎていて、行き来できなかった。
※	関連性が低い分野・内容について、日程を明確に分けても良いと感じた。
※	最終日のプログラムの編成に工夫が欲しい。今回は多くの方が金曜の昼までで帰途についたと思われるが、金曜の午後を有効に使うように工夫すべきだ。
※	ポスターからの口頭発表する人を、厳選で採択してほしい。
※	良いか悪いかというよりアレだけのものをやるなら他のスケジュール案は難しいと思うので、タイトだとは思いますが納得はしている。
※	1DAY研究会(一昨年のコンセプト)の名残が未だ残っているようですが、学会期間をフルに使って関連テーマのセッションにできるだけ参加できるようにした方が、学生のためにはよいと思う。特にポスターでは時間がなかった。
※	会場が分散しすぎ。全ての会場の情報が載っている立て看板が要所所にあるべき。研究発表が行われている時間帯に他の企画をかぶせるのはおかしい。
※	1)ポスターの自由討論は不要と感じた。結局ポスター発表者は、発表時間が終わると、自由討論時間にもかかわらず撤収していたため。2)1会場と2,3会場との移動距離が遠かった。そのため討論時間が終わってしまい、いくつかの発表で発表者とコンタクトがとれず不満だった。
※	当たり前だが、研究内容が似ていると、同じ日のポスターになってしまう。質問者が多いと他のポスターを見に行けない。何とかいい方法はないものかと思う。
※	全体的にもう少し早く終わってくれとありがたい。
※	冊子がなかったため、webでポスターの作成要領を探したが、どこにあるか分からなかった。
※	ポスターのコア時間をもう少し早い時間帯にして欲しい。
※	ポスター会場が3か所に分かれていたのは不便と感じた。
※	ポスターセッションについては、議論の延長が可能な現行時間帯で良いと思います。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	第一の問題点は一般講演からの口頭発表がなかったため、多数の良い発表がうもれてしまったことである。はやりの研究ばかりが口頭発表になってしまい、意外性のある、良い研究をピックアップすることができていない。非常に問題の残るプログラム編成であり、このままの状態では一般参加者のモチベーションを下げることになり、学会自体の衰退につながる。第二の問題点はポスター会場がホテルと国際展示場にわかれたこと。これによって短い時間でポスターを見ることがさらに難しくなってしまった。これまでのように、少なくとも国際展示場にポスター会場は限定すべき。
※	ポスター討論時間をもう少し欲しいです。
※	昔のように一般演題に口頭講演をするセクションを設けるべき。
※	ポスター会場はできるだけ近場でまとめて欲しいと思います。
※	ポスター会場が離れているのが不便であった
※	ポスターの会場は近くにまとめてほしい。ポスター会場1が離れすぎ。
※	企画の時間と重なっていたのが残念だった。
※	ポスター会場にあまり人がいなかった。これだけ規模が大きいと、プログラムはある程度適当に「エイヤッ!」と作るしかないのも、よくも悪くもこれ以上どうにもしようがないと思う。討論の時間どころよりも、ポスター会場に足を運びたくなる工夫が必要だと思う。現状のように一日の最後のほうにポスターだと、どうしてもシンポジウムやWSがメインでポスターは付け足しのような感じになってしまっている。これでは学生にとってせっかくの発表の機会が十分に活かされずトレーニングになっていない。
※	今学会は、ポスター発表全体を把握し難く(紙媒体が無く、数多くて複数日程に渡るポスター発表の全体を見渡せなかったため)、口頭発表への採択もなく、発表の大多数を占めるポスター発表が軽視された感を強く抱きました。「ポスター発表は勝手にやっておけ」という学会の姿勢かと、正直、思いました。もしそうでないのなら改善が必要だと強く思います。また、類似の発表を全日に割り振ったため、ポスターを見るのが大変(困難)になりました。分子生物学会は発表数が多いので、私を含めて、全日出席できる人は多くないと思います。ある程度は関係する発表の日程を集めておいて頂かないと、見たい発表も見られなくなります。
※	ポスターは盛り上がっている会場とそうでないところが有りました。同じ分野が毎日少しずつ有るのは聞ける数が増えて、大変良かったです。以前あったディスカッサーの制度はあった方がいいと思います。

質問14. 高校生の発表(年会参加)について (その他)

※	その他記述
※	高校生を年会で発表させる意義は、プロの科学者にも高校生にも無いと思う。プロに匹敵するよほどの成果を上げた高校生が例外的に参加することはあっても良いと思う。
※	農芸化学会などでは高校生の発表がもっとたくさんあるが、これは春休みに重なって参加しやすいからだと思っている。開催時期の関係で分子生物学会では演題数を集めるのが難しいと考えられ、あえてやらなくてもいいのではないかと思う。
※	ポスター会場の横で見たが、この試みは評価したい。部屋を決めた方が良いかもしれない。また、特別審査員を何名か大学教官が努めて、特別賞等を出したら良い。
※	見ていないが、高校生の発表を聞いてみたいという気が起きなかった。そこから推測するに、高校生の発表を聞く人には、何らかのバイアスがかかる(とても立派でまじめ、もしくは暇など)わけで、その中での発表経験がどれだけ役に立つかは疑問。経験させるということと、それに研究者がわざわざ時間を割いて付き合うということの間の妥協点を考えれば、高校生はきちんとした発表を聴講するだけでいいのではないかと思う。
※	ランチョン形式でやってみて欲しいです。
※	見に行けなかったが、このような機会があることは良いと思う。
※	自分のポスター発表の時間と被っていたので、見にいけませんでした。しかし、高校生のうちから発表等を体験するということはいいと思います。
※	高校生にとっては良い記念になったと思います。
※	展示場所が極めて良くないと感じた。むしろ、ポスター会場の真ん中でもよかったのではないか。
※	小さな学会なら良いのですが、大きな学会だと高校生の発表はかわいそうな気がします。
※	見ていないのですが、必要なものですか？？とどんどん学芸会化するのではと思いますが、見たら意見が違ったかもしれません。
※	毎年思うが、ポスドク問題などの、大学・大学院の後の就職先をどうするか？ということを実に解決してから、若手の勧誘をしてもらいたい。高校生に見せ玉のような実験をさせて勘違いさせ、大学・大学院で学生として実験で酷使し、後は知りませんという現在の状況は卑怯です。
※	ポスターだけちらりと見たがキラリと光るものを感じた。しかし日程的に高校生の発表を聞いてあげる余裕がないので、残念に思う。
※	参加していないので分からない。
※	実際の発表は見ていないのだが、高校生用の発表会場(?)はもっと良い場所にした方が良かったと感じた。
※	見たかったがスケジュールがタイトで見れなかった。
※	ポスター会場が狭く、人が多くて見られなかった。来年も行うなら、ポスター会場を広くして欲しい。参加した高校生は良い刺激/経験になったのか気になる。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	見ていないが、昨年の福岡で、地元の高校生が演題を出しているのはよかったと思いました。
※	これは最優先されるべき企画と思います。
※	ポスター発表していた一部だけが口頭発表したことには少しがっかりしました。どうせなら全部口頭で発表するか、全部ポスターだけで発表して投票するか、もう少し時間を割いてやらないとやっつけ仕事になってしまいます。
※	良かったと思いますが、忙しい大会なので、特に一緒にやる必要はあまりないと思いました。
※	高校生の発表(年会参加)についてはみていません。

質問15. 企業説明会 & リクルートブースについて（その他）

※	その他記述
※	ホテルから遠い。
※	学生が参加していたようです。今後も継続して欲しいと思います。
※	企業説明会とは何でしょうか？AB sciexが会場の一部を使って、商品の紹介をするのを聞きました。これは良いことだと思ったので、どんどんやって欲しい。
※	場所がわかりづらかった。プログラム集にも地図など載せてほしい。
※	必要と思います。このようなブースがあることに気づけなかった。更に目につくようにするなど、充実させるようお願いいたします。
※	参加していないので分からない。
※	参加したかったがスケジュールがタイトで参加できなかった。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	ブースを設けたことは大変良かったと思いますが、アピールが少なかったように思います。学生やポスドクに危機感をあおることも時には必要で、企業への就職を考えていないとしても、情報収集をするだけでも必要だ、などアカデミアにあぐらをかきがちな若い人に、もっと啓蒙すべきだと感じました。
※	企画は良いと感じたが、前宣伝の不足からか、この企画を知らない学生がたくさんいた。
※	参加していませんが、リクルートが困難になっているので、良い企画だと思っています。この企画により、実際にリクルートに成功したケースがどれほどあるのか、知る必要があると思います。
※	いい企画だと思いますが、忙しい大会なので、そんなに希望が強くなければ特やる必要はないと思いました。
※	企業説明会 & リクルートブースに参加していません。

質問16. 本年会の規模について（その他）

※	その他記述
※	日本に一つくらいはこういう大規模の学会もあってよい。
※	規模はどうでもよいと思う。
※	年會に参加していないので何ともいえない。
※	目的次第だと思います。学術的には大きすぎるし、発表練習の場としてみれば適切
※	私個人は大きい学会好きなので、この学会は大変良いと思う。
※	いままでの、学会からすれば少なくなったが、まだまだ大きな学会なので、全体の運営をどうするのか、生化学会との切り分けをどうするかを、引き続き検討されるように希望する。
※	ぎりぎり開催可能な規模だとは思いますが、ポートライナーの利用(特に朝)が不便(というより混雑が)で、東京の通勤ラッシュよりひどいのは何とかならないのだろうか
※	明らかに大きすぎるが、大きすぎるという意見が大半を占めたところで、大会の規模を小さくするという試みは無理だと思うので、この質問の意図は測りかねる。
※	もっと大きくなってよい(生化学会と合同でお願いします)
※	規模はともかく、会場が分かれすぎて大変であった。
※	大きいのですが、必要な情報はごく一部なので、大きさも利点のうちだと思います。
※	大きいからこそできることをやっていけばよいと思う。
※	大きいことを強みにする運営を今後も期待しています。ガチ議論でもありましたが、本学会としての意見を集約すれば、行政もより耳を傾けると期待出来ます。
※	会場の分散範囲をもっと狭めて欲しい
※	学会の規模は、主催者の意図に関係なく大きくなったり小さくなったりします。分子生物学会も、いつまでもこのままではないでしょう。
※	学会より祭りですね。学術的収穫はほぼないです。
※	個別の分野について集中討議する環境には若干問題があるサイズではあるが、特別企画のように、学会のサイズを生かして他では出来ない活動へと展開した点が、評価できる。
※	ワークショップでは立ち見が多く出てしまっているし、後方からはスライドが殆ど見えない会場もあった。もっと大きな会場が必要だと思われる。
※	参加者を制限するのでなければ、規模は開催側で調節できないのでは。同一研究グループ(大学なら研究室か)からの発表では、研究クオリティに基づき自主的に制限する良識が求められる。しかしながら、学会発表実績が学生就職活動等の要素となる今日、学術的な要素だけで決められない実情も理解できる。
※	規模は申し分ないが、各会場が少し離れていると感じた。
※	「大きすぎる」とは思いますが、だからと言って参加者数を制限するのは本末転倒と感じますので、現状に合わせてなんとかやっていくしかないのでは、と考えます。
※	分子生物学会は毎年この程度の規模なので、それに慣れてしまった。
※	大きいとは思いますがそれはそれで生かし方があると感じました。
※	大規模な学会の特徴を活かした企画を今後も期待しています。(あまり凝ったものでなくてもいいと思いますが。)
※	もっと大きくて良い。スケールメリット。
※	生化学会との合同を推進してほしい。
※	PLoSのようなスタンスを持って欲しい。大きすぎるから小さくなるように(参加者が減るように)アレンジするというのは傲慢である。サイエンシフィックなスタンスの上で機会は均等に。
※	日程は3日がいいと思います。
※	参加したいひとは参加すれば良い。
※	会場のせいもあるが、散在していて移動に時間がかかりすぎた。見たい発表を見逃す確率が高まる。
※	この規模は仕方が無いのでは。
※	もう少し少なくとも良い
※	正直なところ規模としては大きすぎると思うが、今回の企画はそれをうまく生かしており、この路線では適切な規模ではないかと思われる。
※	規模に関しては、参加したいと感じる研究者がいるかどうかなので、論じる内容ではないと思います。あらゆる分野の研究者が、毎年分生には参加して情報収集と交流を図り、細分化した別の専門的学会と並列に考えられるものになることに期待します。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	大きすぎると思いますが、言い方は不適切かもしれませんが、圧力団体として政治家や官公庁にアピールする上では存在意義があるように思います。
※	本学会のようなマンモス学会では、このくらいの規模は仕方ないと思う。
※	大きさは適当だったが7,500名の参加者は以前に比べると減少気味のようなので、学会と年會のあり方について長期的な見込みを立手しておく必要がある。
※	参加者が多いのはいいが、発表演題にカスが多すぎる。採択率ほぼ100%はいい加減にした方がいい。
※	参加人数が多過ぎて神戸開催の年は市外に宿泊することもあるので大きすぎるのですが、こうなった理由が学問の魅力なので致し方ないと思います。
※	参加者の規模や開催地はよいが、部屋が散在していてわかりにくく、また入りきれない部屋もあり、会場の部屋選びを真剣にするべきである。
※	あえて言うなれば少なすぎる。生命科学の全領域をカバーする学会として(科学コミュニケーションやアート・音楽との融合を含め)もっと成長できるのりしろがある。
※	大きすぎると思うが、仕方のないことだと思う。小さくなってしまって資金難にあえぐよりは大きい方がまだマシ。

質問16. 本年会の規模について（その他）

※	その他記述
※	多くの研究者が複数学会・研究会に所属しているので、細分化されていない学問分野の研究者が集まる巨大会の年回は必要だと思っています。
※	規模が大きすぎるのか、会場が狭すぎるのかわかりませんが、ある程度大きい方がいろんな話が聞けていいですね。
※	<p>学会員の数が減っているのは、全体的な研究者の数が減っているので仕方がない。今年は特別企画のおかげで参加者は上がったと思うが、いつもの学会に戻れば毎年減少傾向になるだろう。そもそも研究者の数が減っている理由をグローバルに考えられない人が多いのでびっくりした。ガチ議論も参加したがそのことを分かっている人は少ないと思った。研究者が減っているのは、厚生省のせいですか？ 文科省の教育制度が悪いからですか？... 原因はもっと上のレベルだと思う。だいたい誰が今の大学院制度を作ったのでしょうか。米国の大学院は生活費が支給されるのに、日本では授業料を払わなくては行けない。全く逆です。そもそも専門家は増えないシステムになっています。これはそもそも元から日本人に研究をしてほしくないと思った人が戦後にいたからでしょう。その根本のところに気がつかなければ、日本の研究者は増えません。これは経済とも関係しています。科学だけをわかっていてもなにもわかりません。経済は日本が戦後世界で一番になったところで、変えられてしまいました。経済が悪くなる→人口が減る→研究者が減る。シンプルな構図です。これは学会だけでなんとかなるという問題ではありません。もっとグローバルに理解できている人が増えなければ変わりません。</p>

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

その他記述	件数
生化学会	24
日本生化学会	15
生化学会、細胞生物学会	2
ASBMBのように日本生化学会と統一して欲しい。	1
Q4で挙げた学会	1
に本バイオインフォマティクス学会をはじめ、小さい学会に分子生物学会の参加者が気軽に顔をだせるような形式は考えられないでしょうか？	1
やはり生化学会でしょう。似た学会が2つあっても仕方ないです。	1
以前、頻繁に行われていた生化学会など、他分野の方々と知り合えて中々有意義に参加できた。今後は、分子生物でも多用する細胞や動物に関連したもの(細胞物学会や日本動物学会)との合同があればよいと思う。	1
癌学会または薬学会とコラボしてみるのはいかがでしょうか？生化学会とはこれまでに何度かやっています。私は所属していませんが、免疫学会もいいかもしれません。	1
合成生物学	1
合同では特色ある挑戦はできないでしょう。足かせを作って参加者数を増やすのと、自由にやって参加者に2倍楽しんでもらうのでは、私は後者を支持します。	1
細胞生物学会	1
細胞生物学会、生化学会	1
昨年、今年のような学会形式であれば、単独開催でもどちらでもよいです。合同開催をするとすれば、生化学会、細胞生物学会あたりでしょうか。	1
植物生理学会	1
神経化学会か神経科学会	1
神経科学会、神経化学会	1
生化学会、細胞生物学会	1
生化学会、インフォマティクス研究会	1
生化学会、蛋白質科学会	1
生化学会でしょう	1
生化学会はさっさと分子生物学会に吸収されよつまらないエゴはすてよ	1
生化学会何年に1回かぐらいは合同でやっても良いのではないかと思います。以前、一緒にやったときは参加率が上がって、いろいろな方と話すことができたように思います。	1
生化学会等の巨大会	1
生化学会別々の開催だと関連分野の演題数が少なくなってしまうため(生化学会・分子生物学会の両方に参加する研究者は少ないと思います)	1
生化学学会	1
生化学系、生物物理系、構造生物系、情報生物系	1
生命科学系の学会は常に合同開催ウェルカムということにしてみるのはいいのでは？	1
全ての基礎ライフサイエンス学会(生化学、細胞生物、発生、遺伝、生理、動物、植物生理など)と一緒にしても良いのではないかと思います。日本のライフサイエンスを俯瞰できるいい機会となるかと思っています。	1
内容の重複が多い生化学会と一体開催を定例にしてほしい	1
日本人類遺伝学会	1
日本生化学会、日本発生生物学会、日本細胞生物学会、など	1
日本生化学会、日本RNA学会	1
日本生化学会、日本細胞生物学会	1
日本生化学会、日本細胞生物学会、	1
日本生化学会、日本細胞生物学会、日本発生生物学会	1
日本生化学会とは年会のレベルではつねに合同で行うべきである。内容、規模とも両学会を別々に開催するメリットは両者にはないはず。また、現時点であれば分子生物学会が主導して、合同学会の企画を進めることが可能。	1
日本生化学会その他、分子生物学的手法を研究ツールとして利用している学会ならずべて可能ではないか。	1
日本生化学会を吸収してください。細胞生物と連続して開催してください。	1
日本生化学会日本細胞生物学会蛋白質科学会	1
日本生化学会日本免疫学会(分子生物学会の中に免疫学に特化したセッションを設けてもよい)日本癌学会(規模が大きくなりすぎるかもしれない)	1
日本生化学会理由:年会の開催時期が近い	1
日本生化学会 日本神経科学学会 日本発生生物学会	1
日本発生生物学会、日本細胞生物学会、日本動物学会、日本再生医療学会、日本抗加齢医学会	1
発生生物学会、神経科学会	1
分子生物学会と生化学会を合併して一つにまとめ	1
隣国の同様の学会	1

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	生化学会とは組織として合併するべきである。
※	ASBMBのように日本生化学会と統一して欲しい。
※	無理にどこかと合同開催にする必要はないと思うが、福岡大会のように分子生物学会と生化学会が近接して別々に開催されるようなケースでは、一緒にやれなかったものかなと感じた。
※	以前、生化学と合同でやったが、やはり概念的に異なるので別の学会としてやったほうがよい。一方で、以前に比べると生物現象に根差した分子生物学そのものが少なくなり、広範な研究者を引き付ける魅力は薄れつつある。このままだと分子のための分子生物学会、もしくは医学のための分子生物学会となり、多分数年後には参加しなくなっていると思う。
※	合同開催にすると、面白い内容が増える半面、まったく興味がないものも増える。後者の方が多いと、滞在期間が無駄になる可能性があり、不安である。
※	生化学会と合同開催にして、大きな学会は年1回にした方がよい。年配の方々の中には、それぞれ分生、生化に強い思い入れを持つ方も多いかも知れないが、発表内容に両者で大きな差が無く、若い人にとっては、合同にした方がより多くの人に見てもらえる機会が増えて良い。人材交流の面でも両者が合同の方が良い。一部の人の学閥意識で若者が損する構造になっていないか？
※	合同開催で、あまり参加していないような他の学会を肌で感じれるのはいいですが、分子生物学会自体が大きいので合同開催にすると規模がさらに大きすぎるため合同開催しないほうが良いと思います。
※	他学会と合同でも良いが、開催する部屋の広さを考えないと人が入りきらないと思う。
※	大きくなるデメリットはありますが、他の学会からの刺激も必要かと思えます。どの学会と共同にするかということが問題だと。
※	2~3の分科会として分けることも、選択肢としてはありかもしれません。
※	分子生物学会も限界にきているので、生化学会との合同開催を毎回模索すべきである。
※	どちらでもよい
※	今でも聞きに行きたい演題が重なるのに、これ以上規模が大きくなるとますます聞きたい演題が聞けなくなる
※	同じような学会があるのなら、合同にして、労力を省く方がよい。主催者の負担が大きい。
※	現状、学術会議として開催する意味がないです。思い切って、企業の展示会と大学院学の踊り場にしたらと思います。
※	もう少し分割して規模を小さくした方がよいのかもしれない。難しいですね。
※	海外で行われているような、ライフサイエンスの数種類の学会が同時期に近隣/同じ会場で行われ、複数の学会を見て回れるような形態。旅費や時間確保が大変なので、多少参加費が上がっても、そのほうがよい。各学会(役員)は学会の立場やプライドではなく、参加する側から考えて欲しい。
※	難しい問題です。日本生化学会との合同年會も何度か経験しており、そのときはそれでいいのではとも思いましたが、それで今回のようなユニークな企画が実行しづらくなるなら、単独開催を支持します。
※	生化学会と細胞生物学会あたりは重複する人も多し、同じ内容で発表することになりがちなので、もう一緒にしたらどうですか？
※	分子生物学会のみで十分規模が大きいので、他学会と合同開催にすると、訳が分からなくなると思う。
※	毎年生化学会と合同開催にすれば良いと思う。
※	合同開催するとこれ以上に人数が増えるのでしょうか？ほとんどの学会を内包しているように感じています。
※	スケールメリットを最大限活かすべき。
※	いつも合同開催は嫌だが、数年に1回程度なら歓迎
※	数年おきに、他学会と共催すれば良い。
※	サイエンスの発展のためには異分野との交流が必要です。分子生物学は生物学、薬学、医学はもちろん農学、工学、化学、物理学、数学等あらゆるサイエンスとの接点があるので、将来的には異分野との交流から分子生物学の可能性を考えてみるというのはいかがですか？
※	生化学会と一緒にさせていただきたい。
※	分子生物学会単独の内容に偏りがあり、興味が薄れてきている。
※	他学会と同時にやると結局企画数が多くなり、ますます busy なプログラムになり、全てが中途半端になる事を危惧する。
※	複数の学会で合同開催してもらえると、内容の重複が避けられるし、出張回数も減るため負担が少なくて嬉しい。
※	演題など重複するような学会は合同開催。
※	どうせ時間がかぶって聞けないのが多いから、細分化して学会を分けたほうがよい。
※	以前の生化学会との合同開催には、全くメリットを感じられなかった。
※	毎年でなくてもよいので、内容的に重なるので、合同開催を考えてほしい。
※	研究や学問的な面で、分子生物学と生化学はもはや不可分であることは明白なので、研究者の利益を考慮すれば、日本分子生物学会は日本生化学会と速やかに合併すべきである。歴史的なしがらみとか今の若い研究者には全く関係ないことではあるが、それでも合併が無理だというなら、せめて年会くらい一緒に開催するべきである。
※	他学会との合同開催については、規模だけでなく時期の問題もあると思います。生化学会が秋、分子生物学会は冬といった感じで独立していれば、参加する側もスケジュールが立てやすいです。2012年福岡のようなパターンは最悪です。
※	今回のようにテーマ性を持った年会でしたら単独開催が適していると思います。
※	生化学会との合同開催も面白いのですが、参加人数がさらに多くなるとと挑戦ができないことがデメリットのように感じます。私は植物側の人間なのでどっちに転んでもあまり影響はありませんが、硬直化した年会になるくらいなら単独で開催した方がよいと思います。

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	生化学会とは、会員と内容がかなり重複していると思います。むしろ別になっているのが不思議に思っています。
※	これだけの規模のある学会が他学会との合同開催はあり得ないと思います。冷静にお考え下さい。
※	特に意見なし
※	秋か春の暖かい時期にしてほしい。12月は寒い。神戸や横浜は海辺なので風が強く冷たい。

質問18. 理事会企画のフォーラムについて（その他）

※	その他記述
※	不正の調査に係る第三者機関の設置は、末期的なことではなく、スタートである。
※	すべてではないですが、4コマ参加しました。企画は良かったと思います。ただ、年会参加者から比べ、圧倒的に参加者が少ないため、学界全体の総意とはならないと思います。内容は非常に深刻な問題だと思います。
※	全ては参加していませんが、集まる人数が少ない。学術発表と平行なのでよほど関心のあるヒトでないと参加できない。そこで交わされる意見が全体を反映しているとも、一般的な意見とも思えなかった。急先鋒だけが集まり閉じた議論をしていると極端な方向へ行きそうで怖い。でも、招聘された方々が(それなりの肩書きの)どのように考え散るのかを聞くことができたのは良かった。
※	1回しか参加していないのでなんともいえないが、大学と研究所のスタンスの違いが不明瞭で、全体的に論点がすぐに拡散してしまう印象をもった。大学は教育機関であることが大前提であり、K教授の問題に関して、単純にデータの捏造の査定と当事者の処罰で論じることができない問題があると感じる(大学院生の学位取り消しの問題に関しては、解決はより困難)。
※	学術発表と重なっており、興味はあったが参加できなかった。
※	ホームページで統一見解を告知するので十分だと思います。議論して決まるものではないと思います。
※	自分自身は参加していないのですが、学会で毎回毎回取り上げる問題(一般参加者までまきこんで)なのかどうかは疑問に思っています。もっとサイエンス自体を中心に、前向きな話をしたいです。
※	企画は非常に素晴らしいと思いましたが、時間がシンポジウムやワークショップと被っていたので、ランチタイムなど行きやすい時間に予定してもらえると良いと思いました。
※	基本的には、「開催形式・内容ともによかった(一定の評価をした)」だが、ガチ議論よりもこれこそ、テレビ放映するべきではないのか。
※	試みは悪くないが、実際、「何をするのか」が曖昧に終わった感じがした。
※	聞きたい演題があったので参加できなかった。一般演題とは異なる時間帯の方がよかったのではないのでしょうか。
※	通常のサイエンスのセッションの裏番組にしたのが残念である。
※	一般の研究発表の「裏番組」的な時間帯に設定されており、参加しづらかった。
※	一コマだけ参加したが、イマイチ核心に迫れていない印象を受けた。今回のねつ造問題に関与した人間がいる機関の人間としては物足りなかった。しかし、発現が公式記録として残るため、当施設への様々な影響を考慮し質問を控えた。
※	参加はしなかったのですが、どういう話になったのかは気になるので、Youtube等で配信していればみてみようとは思っています。できれば、まとめとかつくってくれたら良いのですが。(そしたら、みんないなくなっちゃいますかね。笑)
※	学術プログラムと完全に重なっていたため、全く参加できませんでした。
※	参加したかったがスケジュールがタイトで参加できなかった。内容のweb公開を楽しみにしています。
※	参加したくても参加できない今回の設定は最悪
※	一部のみに参加した。ワークショップ等と時間を分けた方がよい。議論が中心なのはよかった。ORIを設けるのは、よくない面も大きい。研究現場では、研究活動に多様な制約がかかり余計な事務作業が大幅に増えるだろう。研究者の独自努力で、ORIのお世話にならずに、健全な姿で研究をしたい。理事がORI設立の方向に向かっているのは、学会のあるべき姿とは逆ではないか。
※	麻薬を作って売らないと皆が生きていけない国で、麻薬撲滅するために何をすべきかを考えるフォーラムなど参考にするといいと思います。
※	若手教育とかえらそうにやって、そのパネラーが研究不正問題の当事者に。学会がこの人かと思って選んだひとがこのようなことを起こしているという事に対する過去の反省がないのでは？過去の事を無視して前に進めるように見せても意味がない。
※	内容は良かったと思う。シンポジウムやワークショップと時間が重なると参加したくともできない場合があった。非常に残念。
※	初日だけ参加したが、どこからが不正になるかに関して考えさせられた。
※	参加者が少ない
※	こういうものがこれまでの学会で行われてこなかったこと事態に恐怖しております。強盗や詐欺を放置する国で、若者に自由があるでしょうか。人生を謳歌するのは身分が安定した教授・准教授先生だけ、という世界に若い人達は身を投じたいと思うでしょうか？こういう企画はすばらしいと評価しなければ続かない現状を恐ろしく思います。もっと当たり前のよう開催してもらわなければ、未来はありません。来年度も継続を期待します。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	ねつ造に加担したわけではないのですが、分子生物学会としての説明責任はあると思うので、何かしらの対処を考えてほしいです。
※	今回は参加できませんでしたが、必要な企画と思います。デリケートな内容を含むでしょうからリアルタイム動画配信は無理と思いますが、開かれた場での討論は重要ですし、議事録も後日公開して、文章によるメッセージとして会員に伝えるべきと考えます。
※	意図と内容は高く評価します。しかし参加者が少なかったのは会員の興味の問題と共に回数が多すぎたせいもあるかもしれません。2回程度にわけて行う事で集中度を高める事も出来たかと思います。関係者のご尽力に感謝すると共に今回の教訓と議論が今後の改革に生かされるよう願います。
※	ホームラン的な研究だけしか評価しない研究者社会の姿勢が、公正性を逸脱しても構わないという考えの根元かと思えます。
※	お疲れさまでした。非常に良かったと思います。パネリストの考え方のバランスをもう少しとった方がいいと思いました。壇上からの意見が強すぎるのは活発な議論の妨げになるかもしれません。ご努力感謝します。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	今年度の年会は、年会長のキャラがあるから成り立った形式である。来年以降真似したところで誰もついてこないと思う。基本的にはワークショップやシンポジウムやプレナリーレクチャーの演者の人選とクオリティの向上に労力を割いてほしい。
※	近藤滋さんのセンスが光った年会だったと思います。ネガティブな意見も当然あると思いますが、新しいことを取り入れチャレンジすることで、巨大会が取り得る今後の方向性が見えてくるのだと思います。
※	今回だけの取り組みにしてしまうには惜しい企画が幾つかあります(ポスドク招聘、ガチ議論)。予算の制限もあるとは思いますが、分生でしか出来ないかつ継続的に行ったほうが効果が出る企画ですので、是非もう数年は続けていただければと思います。
※	未来の学会のあり方を考える挑戦的な取り組みは評価しますが、ある程度継続性を持って、改革に取り組んで欲しいと思います。3年間は同じスタイルで開催し、学会がどのように変貌するのか、見てみたいと思います。
※	プログラムの絵がよかった。
※	ASBMBのように日本生化学会と統一して欲しい。
※	生化学会と合体して会費の負担を軽くしてほしい。
※	毎回は厳しいと思いますが、時々このような盛りだくさんな企画の学会があるといいと思います。
※	言いにくいのですが、ジャスうるさかったです。展示ブースとはいえ聞きたくないものを聞かされるのは少し集中力をかきまします。
※	Jazzとサイエンスアート企画は是非定番として欲しい。
※	とても盛会であったと思います。組織委員会の皆様、お疲れさまでした。
※	iシステムは使いやすく、非常に便利であった。次回以降も本システムの運用を希望します。
※	研究重視
※	今年の最終日のように、エンターテインメントの要素を入れるのは良いと思う。
※	海外からの招聘は非常によいと思いますが、国内若手にも同じようにサポートがあってもよいのではないのでしょうか。
※	少しのfunは必要かと思いますが、もう少し厳かな雰囲気Scienceの議論をしたかった。これからを期待しています。
※	新しい企画を盛り込んだという点では評価できるが、いずれも消化不良の印象がある。ガチ議論は、文科省の役人や元議員、企業関係者など呼んだけれど、現場の研究者からはかけ離れた議論ばかりで、若い研究者はより不安にかられるだけで、夢のない、楽しくない話だった(最後の方までいなかったので、少なくとも前半は)。やはり、博士号のあるかなりの研究経験をもつ人材(年寄りの天下りでなく)が、科学行政や政治に関わらないとダメか? 科学という文化がない日本では、いずれ「科学技術」という分野しか存在しなくなるのだろうか?
※	やりたい方向性は賛同しますが、一回限りの試行では意味がないと思います。次回にも引き継ぐ様な伝統を作ってください。年会長の個性が強烈に反映されるという伝統の開始にあたる機会になったのかもかもしれません。10年後にあんなときが有ったと言う様な笑い話になっただけかもしれません。
※	もう英語で全部やるべき
※	ポスター会場が分かれていたのが不便だった。
※	一般公開のプレゼンはとても良かった。是非、この企画を継続し、一般市民に向けては事前に大々的に宣伝して欲しい。一般市民に科学の根が広がる有効な手段であると思う。その意味で、今回の企画は、企画そのものも発表内容も素晴らしい。今回の様に、スライドにデザイン性を取り入れ、プレゼンを徹底的に練り込んで欲しい。
※	この路線で行ってください。反動で元に戻ると、分子生物学会も生化学会のように落ちぶれます。
※	全てが個人的に興味を引くものではなかったが、様々な特別企画を試してみることは賛成です。特に「ガチ議論」は、日本の大学における研究環境の改善を強く望む自分にとっては、学会前にウェブ上で様々な双方向性の意見交換が拝見できてよかったです。委員会の皆様お疲れさまでした。
※	今後も新しい取り組みを続けるべき。
※	国際化の名の下に英語使用を押し付けるのは勘弁。
※	特別企画を悪いとは言わないが、もっとシンプルな学会が自分としては良いと思う。期間が長すぎ、余計な企画が多すぎて分散しすぎていた、と思う。
※	非常に良かったと思います。マスコミとのタイアップもあり、実験的な試みにワクワクしました。
※	サイエンスアートは理解できる。しかしジャズは誰かの個人的な趣味でしょう。無意味とまでは言わないが無駄な企画としか思えない。ジャズや発展場の提供などが学会の企画としてOKなら、学会公認のスポーツ大会とかもすればよろしい。年会は議論する場所である。
※	今回は今までにないくらい、とても「楽しい」分生でした。来年以降も、今年のように企画して頂きたいです。
※	サイエンスセッションもそれ以外の企画も、非常に充実していて楽しい年会でした。会議室の性質上難しいところもあるとは思いますが、スクリーンをもう少し高い位置に設置していただけると、見やすいです。
※	今回の学会の取り組みには非常に感銘を受けました。近藤先生からの会員宛メールも拝読させていただきましたが、その内容にも賛同致します。自分達の領域の学会も変わって欲しいと思い、その学会執行部の先生に今回の分子生物学会の様子を伝え、近藤先生のメールを転送しました。今回の企画実現は、年会長始め多くの関係者の皆様の多大なる御尽力、御人望の賜物と思います。本会の成功に敬意を表するとともに、心より御礼申し上げます。
※	今回の学会のように最終日のポスター発表をなくしてもらえるとありがたいです。企画としては「2050年シンポジウム」のようなものがあると学術以外でも楽しめていいように思います。
※	私は植物研究者ですが、ここ数年で植物研究者の参加が著しく減ってしまった。もっと植物研究者が参加を希望するような工夫があったら良いと思う。
※	関東でやる機会を増やしてほしい。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	3つのポスター会場のうち、1つの会場だけ遠くて不便であった。偶数奇数発表で何度も往復する必要があったため、ポスター会場は近辺にしてほしい。昼食を食べるところが少なく不便であった。昨年の福岡の様に、神戸と横浜以外でも開催してほしい。例えば、北海道など。神戸で開催の場合は、開始時間が九時からのため、朝の通勤ラッシュ(ポートライナー)と重なってしまい、非常に行きにくいので、開始時間を前後に少しずらすと良い気がする。
※	シンポジウムとワークショップの時間を一日にして、そのテーマについてとことん議論すべきでは？2時間半では時間が少なすぎる
※	ポスター発表の日本語化の積極的推進 英語発表も可とするがデフォルトは日本語でないといけない。これは分野がひろい分子生物学会ではポスターなどをみてまわってもアイキャッチで重要なものがわからないからである。netでの検索は勿論活用できるが、巨大会会としては日本語発表プラス英語ポスタープリント(備え付け)というようなスタイルで外国からの参加者には対応し、学会自体は日本人参加者のための学会となってほしい。
※	堀田先生の講演とWeb参加型の討論会を織り交ぜた、キャリアパス委員会の企画の2日目の分がとても良かった。
※	今年の年会長さんの近藤さんは良くやったと思います。企画の一部(特にガチ議論、Jazz、アートとの融合)は来年以降も引き継がれていくことを望みます。時々大会に活気を入れるために、近藤さんは数回に1回位大会長をやってもよいのでは？
※	企画の多くが上滑り的であったという印象です。試みをされることは結構と思いますが、地味でまじめな研究者を遠ざけることにはならないと思います。近藤会長(および阪大生命理学)は「面白いことはいいことだ」とお考えだと思います。私は、この価値観は科学にとっては非常に危険だと思います。アートや音楽にも「面白さ」にも絶対の善悪や正誤はありません。しかし科学はそうではなく、重要か否か、正しいか否かは、証拠と理論の積み重ねで決まるものです。重要で前途有望な研究が「おもしろい」の一言で駆逐されることを危惧します。私はかつてプロの音楽家を目指していました。そのとき痛感したのは、全員を感動させる音楽は存在せず、逆に、優れた音楽であっても、権威者に気にいらなければ世に出ることはないということです。分子生物学会が「おもしろいかどうかを一部の権威者が判断する」団体になってしまうことを危惧します。アートと科学の価値観は違います。学会にアートを持ち込むことには絶対反対です。私は非常に個人的な理由でジャズは嫌いです。音楽を流すことは、場合によっては参加者の一部に非常に不愉快な思いをさせることもあります。
※	大変個性的な年会長のオーガナイズにより、一般からの企画募集を経て、今回は斬新な企画がたくさん盛り込まれていて、非常に刺激かつ面白い学会だったと思います。サイエンスの面白さを引き出し、それを科学者に思い出させ、かつ一般国民にも発信するという意味でよい企画が多かったと思います。もちろん斬新な企画のみならず、本来の趣旨であるサイエンスの進捗発表の場としても、通常通り、あるいはそれ以上に機能していたと思いました。
※	良かった。大学、研究所以外の方から話を聞けて非常によかったし、夜は飲んで終わりより夜まで何かやり続けた学会だったと思います。
※	来年は参加しようと思っています。
※	学会の大きさを活かした活動をさらに模索してほしいです。広い講演会場のある所が望ましいです。
※	分子生物学会も限界にきているので、生化学会との合同開催を毎回模索すべきである。
※	今年のような斬新な企画が入った学会であれば、とても良いと思いました。
※	去年まであった「ポスターから口頭発表(シンポジウムやワークショップを含む一般講演)に採択されるシステム」は復活させてほしいです。地方の国立大学で研究をしている身としては、そういう場所がないとappealする場がなかなかないためです(ポスター発表時に、多くの方が聴きに来てくれましたが、それでも、やはり口頭発表の方がよりappealできると思いますので)。
※	あまり企画に力を入れず、シンポジウム、ワークショップに力を入れてもらいたい。本当に英語で行うのが良いのか、再考の必要があると思う。参加者が減少している原因になっていると思う。
※	面白い企画があり、それなりに楽しめた。分子生物学会の転換期にある印象を受けた。他学会との共同開催もしてほしいと思うが、今年度のようにエンターテイメント色が強くなると、なかなか難しいかもしれない。分子生物学会は単独で好きなようにやった方が良いのかもしれない。しかし、「世界のトップレベルのサイエンスを発表する場」という学会の基本は失って欲しくない。
※	大隅典子先生と近藤滋先生の波長が一致したのでしょうか、斬新な年会でした。私は単なる一学会員ですが、近藤先生にお礼を直接言いたかったくらいです(恐れ多くて近寄れませんでした)。批判を恐れず、攻める学会であり続けて欲しいと願っております。
※	ポスター演題を冊子にしていないので、webでの演題検索は、すぐに打ち切るべきではない。
※	海外ポスドク招聘はいいアイデアと思いました。もっと宣伝をして海外で素晴らしい研究をしているポスドクが日本に戻ってくるきっかけになればよいと思います。高いお金を出してBig Nameを呼ぶより、良い研究をしている日本人のFirst Authorを呼んだ方がコストパフォーマンスも良いはず。
※	「最近、発表の学生さんが黒服で嫌だな」と感じていたのですが、分子生物は大変健全で、少し安心しました。それとも就職を諦めた学生さんが多かったのかなあ。
※	巨大会会としての有りようの方向性はいろいろあると思いますが、今年のように学会運営そのものが自由闊達であることが続くことを望んでいます。今年度の学会は記憶に残るものになりました。参加してよかったと思っています。
※	近藤年会長の自由な発想の学会だったと思います。よかった！
※	シンポジウム、ワークショップともに参加者数と会場の大きさがマッチしてないものがあり、会場に入れないセッションが多くあった。ある程度予測して会場の大きさを選定してほしい。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	(年会への意見ではありませんが)、AAASのように政策などについて、学会として意見を表明するべきだと思います。学会員の総意を示せば(医学会のように)政治に対して何らかの影響を与えることが出来るのではないのでしょうか。
※	発表のカテゴリーを事象でわけることには異議がないが、植物・微生物に特有な分野(たとえば光合成とか物質生産系)などが存在せず、この分野を専門とする研究者としては、自分たちの研究分野が分子生物学ではないのかと強く思った。ないがしろにされているように感じた。
※	電子版抄録集を続け、是非次年度以降も残るデータベースとして維持して欲しい
※	現在分子生物学会は隆盛であるが、多くの研究者はこの状態が永遠に続くことを信じて疑っていない。もし、他分野(物理、化学、哲学等)から、「分子生物学は、学問として健全ではない」というレッテルを貼られたら「税金を使って分子生物学を行うのは不毛だ」という事態になりかねない。文科省やJSPSの方は、この点を強調されていたように思うのだが、分子生物学会側からは有効な反論がなかった。Funding Agencyが不正チェックを、という意見には、「分子生物学を切り捨てることはできないだろ?」というおごりが感じられた。このような状態で、分子生物学会に理不尽な要求が来た際に、他分野から協力が得られるのだろうか。「健全でない学問領域と一緒にされてはたまらん」と、断られないだろうか。あるいは、分子生物学会は解体の危機にあるのかもしれない。各研究者が、より専門的な学会へと散っていき、「私は分子生物学会とは関係ないです」と言い出す日が来るかもしれない。「さようなら分子生物学会。分子という共通語で、様々な生命現象の勉強ができたころは楽しかったよ。」という台詞を用意した。これを使う日が来ないことを祈ります。
※	神戸開催だとモノレールが混みすぎるので、他の場所での開催を希望します。
※	今回のアウトリーチ企画は継続して良いのではないかと。特にアート企画は、サイエンスにも関連した優れた作品も多く、学会会場の雰囲気良くしていた。
※	へやが狭すぎ。座長が持ち時間を考えず、遅延が多すぎ。しかし、十分たのしめました。御苦労様でした。
※	「生命科学を考えるガチ儀論」について、今回は考えるきっかけを提供して頂いたという段階で、今後さらに議論を深めていくべきだと思うので、何らかの形で続けて欲しい。また、日本で最も大きい学会として、大きいからこそできることを模索し、他学会とは違う独自の方向性を打ち出して欲しい。今回の年会の特別企画を土台に、何をしていくべきかを、学会員の意見にも耳を傾けつつ検討していくべきだと思う。今回の学会直後に、次の学会の方向性が発信されるのには違和感を感じた。
※	大型プロジェクト(ERATO, CREST, 新学術など)の報告会をまとめて分子生物学会でやればいいです。
※	いろいろと企画を持ち込んだり新しい事を始めた点は大変面白いと思います。それによって受け身では楽しめない学会になったので評価は真っ二つに分かれると予想できます。積極的に参加した人には充実した学会であつたらうと思いますが、今回そうでは無かったので一参加者としてはバラバラの小学会が近くの会場で行っているような感を拭えませんでした。
※	非常に意欲的な大会を企画してくださったコアメンバーの方のご努力に、一学会員としてお礼を申し上げます。常に同じような企画が走るのでは考え難いにせよ、大型学会の学会活動に一石を投じたことは間違いなく、よりまじめに振れるにせよ、類似の路線を継承するにせよ、今後の年会での企画が楽しみです。
※	前の質問でも答えたが、ポスター会場・企業展示ブースの会場は一所にまとめてほしい。オンラインアプリを使って、要旨検索・スケジュール管理ができるシステムは今後も継続して欲しい。
※	研究公正性の確保のために今何をすべきか?、このような企画は続けるべきである。
※	4日開催の場合でも、初日は昼から始まるとかの方が集まりやすいと思います(1泊減らせるだけでもありがたい)
※	来年の年会は研究発表と議論中心に戻すと年会長の所見を拝見しました。ぜひそのようにしていただきたいと思えます。
※	シンポジウムやワークショップによっては部屋が狭すぎたり広すぎたと感じた。事前アンケートでどのセッションに参加したいと思うかアンケートをとれば、部屋を振り分けやすいのではないかと思う(実際にこれを行っている学会はある)。iPS細胞の研究に対する質問で不適切な質問をした人がいて「荒らし」のような状態になってしまったので、そういう人を取り締まるとよいと思う。研究とは関係なくiPS細胞の応用に対して自論を展開していた。「一人でいくつも質問しないでください」と制止したチェアの対処は適切であったと思う。最終日のランチと楽しい企画は是非毎年行ってもらいたい。Tシャツなども売っていたが、おつりの準備ができていなかったり不手際があった。Tシャツも高すぎる。全体的に非常に有意義な学会であったと感じた。
※	最近の学会に見受けられる、勝ち組の理論の企画だけでは物足りない。もちろん先端に行く視点は必要。その上で、様々な目的、環境、立場で実験科学に関わる人達が、学会にそれぞれ求めることがあり、参加することにも配慮があるとよい。
※	それぞれが、予期せぬ出会いを体験できる場所を、もっと増やしてほしいと思いました。例えば、以前行っていた開催前夜の申込制のフォーラムなどです(wet&dryの若手の企画に参加しました)。それぞれに研究への情熱を持った個人同士の出会いが重要だと思います。
※	横浜と神戸以外の街でもやってほしい。
※	大いに学び、大いに笑い、そして大いに考えるという、素晴らしい年会でした。
※	特別規格が後半に集中しており参加できなかった。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	今年の分生はすくなくそうな予感がしたが、参加してみると細部まできわめてよく準備されており想像以上にすごかった。今年いろいろな学会に参加したが、いろんな意味で一番楽しかった。一見、ギャグっぽくつくろってはいるが、アートを示したり、ジャズを演奏したり、顔に落書きしたり、また将来の学会像を真剣に議論できるのも、サイエンスのアクティビティが非常に高い分生だからこそであり、他の学会が同じことを試みてもまず無理だろうと感じた。組織委員会の努力の賜物であり、素晴らしい学会に参加できたことを感謝している。この感動をもう一度ということで来年もぜひ参加しようと思っているが、年会長あいさつをざっと見ると、アホな学会によくある悪名高いディスカッサーの復活など、古典回帰を是としているようで、今年の問いかけを無視するような展開に大きな不安を感じた。
※	初めて参加したが、大きな学会だからこそそのメリット(普段きけない専門外の話の情報収集ができる)を感じた。ただし、発表する側としては聴衆のバックグラウンドが広すぎるので、講演全般が概論的な発表に終始しているところが物足りなかった。そういう意味では、ポスターの方が使える情報がより多く収集できてよかった。
※	いいね
※	運営をされた方々お疲れ様でした。政府の方の考え方のようなもの話があると良かったと思います。
※	近藤大会長が開始したこの流れをぜひとも継承していただけないものか。同じ企画を行う必要は全くない。自由な発想による、驚き感のある、「研究者の祭典」的分生を希望する。
※	特に無し
※	海外ポスドク招聘企画はこれから海外に行く人、海外から日本へ帰ってこようと考えている研究者にとって有益だと思いますので、是非とも次年度以降も続けて欲しい。
※	ポスター発表の会場ですが、数力所になるのは仕方ないとしても、その会場と会場との距離が徒歩5分以上もかかる場所であるのは不便だった。
※	Late-Breaking Abstractsは、あった方がよい。というか、無いと困る(マスターの取得に学会発表が必要であるため)。
※	ポスター発表と、企業ブースが分かれていたため、企業の方に出向く機会がありませんでした。今年ほどの盛りだくさんな企画と、それに対する意欲を来年以降も継続して頂けるよう期待しております。やはり年会長のようなカリスマ性が必要なのでしょうか。
※	ここ数年、口頭発表会場で席が全然足りない。立ち見している人も多すぎて前が見えない。
※	基礎的な研究の講演に関わる企画に工夫が欲しい。今回は本質的ではない部分に過度に力が入りすぎた印象を受けた。ここ数年で、植物分野の研究者にとって、まったく魅力のない学会になってしまったことが残念でならない。
※	2050年のような企画は不要だと思います。
※	ポスター発表を午前と昼と夕方に入れることにより2~3日の日程で会議を終了できます。(会場費の節約)ポスター演題が集まったところでアブストラクトを公表し、事前に希望を調査して人気の高いものをハイライトポスター発表(少し広めの飾りつきボードを用いて)プレゼンテーションしてもらい、などというのも会員の意識向上にとってプラスになるかもしれません。
※	トラベルグラントのシステムは人数を少なくとも維持していただけたらと願っています。
※	準備が大変だったと思うが、新しい企画はとても良かった。
※	意欲的な新しい取り組みが多数あり刺激的な学会だったと思う。今後も大規模学会のあるべき姿を模索してほしい。
※	いまのところ思い当たりません。
※	いろいろなものが並行して行われるので、また場所も離れており、ヒトの流れがよくなかったと思う
※	年会では学会員の希望を叶えるのが最大の使命。そこにバイアスがあっても、それは時流や歴史を反映する自然発生的なものではないか。それを受け入れることが大切。学会員の意志や希望をそこねる「調整」の全てに、合理的な根拠が本当にあるのか? 偏見でみていないか? 研究プロジェクトと学会とは明らかに異なるものだが、混同している場合は無いのか? 分子生物学会の本来の趣旨や良さが、年々損なわれてきている気がします。
※	2013年12月13日 配信メールにありますように「これが実現すれば、他の小さな学会は、そのような負担から解放され、時間、研究費、労力を大いに節約できることとなります。」という形で、大規模学会と小規模学会を差別化し、それぞれ節約できる所はする、という態度に賛同します。
※	各会場が離れていて、移動が大変だった。
※	「生命科学研究を考えるガチ議論」は毎回行ってよいのでは。但し科学技術政策、研究費配分、大学のマネジメント・人事、ポスドク問題、、、を一度に論じるのは無理なのでテーマは絞るべき。
※	学会の内容に偏りを感じ、あまり興味がなくなってきた。もっと、広範な領域の分子生物学の手法を使った研究領域にすべきと思う。
※	今回は、始まる前からとても楽しみにしていました。特にガチ議論は大きな価値のある内容だったと思います。それらを含め、近藤先生が狙ったことはヒシヒシと感じられた年会でした。とても楽しめたし、来年以降にも繋がってくれたら、と思っています。委員会の皆さま、本当にお疲れさまでした。心より感謝申し上げます。
※	新しい事はどんどんやればよいと思うが、一般研究発表が軽んじられているようなプログラム編成はどうかと思う。このアンケートでも各企画についていろいろ質問があるが、そもそも企画意図・企画の違いが良く解らないのに、全て個別に質問されても・・・年会長の熱意は認めるが、分子生物学会年会で、研究発表以上に大切なものがあるのでしょうか?????ポスター会場に全員が足を運ぶようにするにはどうするべきかがまず第一に考えるべき事では?だとすれば、自ずと今回のような会場割はあり得ないと思うのですが?
※	失敗してもいいので、新しい試みにぜひチャレンジしていただきたい
※	・どの会場も立ち見の参加者がいて、席の確保が困難であった。・会場によってはスライドの位置が低く、後ろの席では見えないことがあった。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	今回の企画は、今までにない新しい試みが多数あり、参加者も満足したかたが大半だと思います。自分が修士の学生だったころ(15年前くらい)は、分子生物学会に行けば最新の情報が得られるので、是非発表したいと思っていました。しかし、ここ数年では、学会自体にまとまりが感じられなくなり、参加に消極的でした。今回の企画を見たとき、非常に期待感が高まり久しぶりに参加しました。今回の企画を通じて巨大会でできること、やらねばならない事が見えてきたように思います。理事長や大会長の、研究者の現状と社会との接点の重要性を見極める研究者大学人としての眼の確かさが、今回のような盛り上がりりに繋がったのだと思います。今回のような多様な企画があれば、絶対に参加しなければという気持ちになります。会員として、来年度にも期待したいです。
※	写真にいたずら書きをしよう！みたいなコーナーがあったように思います。やりすぎで品がなさすぎる。同じ学会員であることが恥ずかしかった。
※	1)企業ブースがポスター会場と離れていたため、例年よりも人が少なく感じた(スポンサーへの扱いがあまりにもひどいのでは)。また、企業のミニセミナーにはほぼ全く聴衆がおらず、もったいないと感じた。今回は一般口頭発表がない分時間が余ったので、ぜひ参加しようと思ったが、タイムスケジュールや内容がわからず結局参加できなかった。プログラムをもっと積極的に告知するなどしてもよいと思う。2)トップレベルの研究者が集まる学会で、討論会を行うのはとてもよいと思った。3)アート企画はいらない。学会はあくまで勉強の場と考えているので、おかない雰囲気でも問題ないと思う。もしアート企画を行うとしたら、市民公開制にしたらいと思う。特に写真の展示は、展示者による説明時間を設けたりすると、一般受けすると思うので、社会貢献に繋がるのではないかと。4)海外ポスドク招聘企画を知らないポスドク研究者がけっこういたようなので、もっと積極的に告知してもよいと思った。
※	今回と同じで無くてもいいので、来年以降も学会の個性を打ち出して欲しい。
※	最終日イベントは是非またやって欲しいが、毎年行くと学会でなくなりそうなのとイベントの有り難みが薄れるので、3~4年に1度くらいのペースが良い。その際、分子生物学会以外での学会で、興味があるが規模など考えると実行が難しいところがあれば、その年は共同開催と言う形でやるのも手。興味があるなら分生に入会して、分生行けという意見もあるかも知れないが、複数の学会に所属しそれに全部行くより、1つで完結できる共同開催の選択肢や多くなりすぎた学会の再編統合を最終日イベントと言う口実を契機に考えるのも1つの方法ではないかと。
※	IT化に絶対反対。歩きスマホする奴ばかりで邪魔だったし、当日情報が手に入らない(スマホではないので)。
※	ITを活用し大物の研究者だけでなく、若い層の研究者の意見をくみ上げようとする姿勢は素晴らしいと思います。日本の研究の力を増やすための指針決定や、国や社会に対する働き掛け、研究者に対する啓蒙など、巨大会にしか果たせない役割があると思うので、今後もこの学会の奮闘を期待します。方針やシステムを考えると、欧米のマネをするのではなく、日本にあった日本らしいシステムを考えるといいのではないかと思います。
※	企画フォーラムにも目が向けられるようにしてほしい
※	時間がかぶってほとんど聞けないものが多い。スリム化を目指すべき。
※	学会・年会企画、いくつかは来年度以降もレギュラー企画化していただきたい。
※	ポスター演題の冊子は、必要だと思う。
※	是非、来年も、今回の最終日のようなイベントを企画していただきたい。
※	神戸国際会議場の5階の会場は、半分より後ろに着席していると、スライドの下3分の1は見えません。これは、部屋の天井が低く、高い位置にスライドを映写できないためです。このような会場を使うことは止めていただきたいです。聴衆は多大なストレスを受けていると思います。また、このような部屋を割り当てられたワークショップは明らかに「はずれくじ」を引かれたこととなります。今後も、ポートアイランドで大会を開くと思いますが、是非とも、天井の高い部屋を確保してください。
※	興味深い催しが多かったので参加したかったという気にさせられた。今後学部行事との日程の都合がつけば参加したいと考える。
※	年会企画が本気で取り組んでいるので、シンポジウムや各ワークショップにより効果をもたらしているように思った。座長やスピーカー陣も自由にやっという雰囲気が浸透していた気がする。これまで以上にアカデミックな場が盛り上がりたのではないのでしょうか。
※	総じて素晴らしい学会であったと思います。ある意味、伝説となるでしょう。ありがとうございました。
※	今回ほど大胆な企画を継続するのは難しいかと思いますが、今回の流れを少しは残していただくと良いかと思います。
※	巨大会であるからこそその、発信力や影響力のようなものが分子生物学会にはあると思います。日本の学会における、模範となるような新しい取り組みをしていくことに期待します。また、ガチ議論ではUstreamやSNSが有効に活用されています。この様なツールを、もっと積極的に様々な場面で利用していくことも考えて頂きたいです。近年とても気になっているのは、ワークショップとシンポジウムにほぼ区別がないと感じることです。私の認識では、ワークショップは「先進的な研究をしている演者から皆で知識を学びましょう」、シンポジウムは「シンポジストがネタを提供して、会場全体でそのテーマについて議論をしましょう」というものだと思うのですが、シンポジウムも単に演者が講演して終わりというものが多いと思います。つまり、現在の分子生物学会は、議論の場としてほとんど機能していないということになるのではないのでしょうか。ただ講演を聴くだけなら学会に参加する必要は無く、ストリーミング配信だけで十分です。やはり学会の本質は、直接会ってしっかり議論をすることだと思います。
※	繰り返しになるが、一般参加者の口頭発表の機会がまったくないのが最も問題である。また、絵画のスペースや音楽の演奏など、娯楽の要素も悪くないかもしれないが、ポスター会場を離れたところに設置することになってしまうような、本末転倒な企画はやめるべきである。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	10年ぶりに参加しましたが、先進的な学会スタイルに驚きました。異分野の話から共同研究が生まれ参加した甲斐がありました。どの会場も立ち見ばかりで、できればより大きい会場が希望です。
※	デジタル化にフォーカスしすぎて、研究発表の場が少ない。
※	生化学会との合同開催(毎年を希望)合同だったり、単独だったり、誰がどういう理由で決定しているのか、両学会にしっかりと説明してほしい。また、その説明責任はあると思う。
※	年会長はじめ、みなさまご苦労様でした。
※	学会として意見を主張したり、新しい研究分野創成のきっかけを作ることは賛成であるが、もっと事前に練らないと、雑多な雰囲気になってしまっていた。イベントを沢山やるよりも、学会本来の姿に戻り、偉い先生方がポスターを一つ一つ見て回り、鋭いコメントをするような緊張感のある大会にすべきである。立ち見の会場がある一方、閑散とした会場もあったので、会場規模の選定をもっと正確にやる必要がある。全部のテーマを毎年やるのは参加人数も多くて大変なので、大きくテーマを二分して、重点的にやるテーマを交互にしてはどうか？
※	学会の意義を考えさせられる非常に素晴らしい年会でした。今後もこういう意識を持って学会運営に当たって欲しいと思いました。
※	参加人数が多く大規模になってしまっているので複数会場での開催はしょうがないですが、できれば会場間が近い場所での開催をお願いします。
※	オーガナイザーの方々、お疲れさまでした。
※	分生年会の存在意義は以前不明であり、今後も問いかけが必要と考えます
※	プログラムを見ても何が行われるのか、よく分からないことが多いので、メールでその日か次の日の内容を配信するのはよい方法だと思いました。
※	他学会で見られるような、地区ごとの支部会があってもよいのではないのでしょうか。
※	今回のようなITを多用した取り組みは、今後もある程度継続していただけるとよいと思う。
※	生化学会でも同じことが言えるが、学術的な情報交換をする目的からすれば、分野ごちゃまぜ・同時進行の大規模学会には限界を感じる。KeystoneやGordon conferenceのようにテーマ別分科会にして、時期をずらしながら全国各地で開催してみてもどうか？
※	ITでのプログラムは、オフラインでも使えるようにしてください。冊子のプログラムを用意してください。生化学会と合同で年会を開催してください。よろしく願いいたします。
※	学会に参加せず抄録のみオンライン要旨閲覧の場合、料金1万円となっていますが、当日参加登録費の1万5百円に比べて殆ど同額であり、高すぎると思います。
※	今回はいろいろと新しい企画を立てて開催した。その努力は認める。しかし、そのほとんどが企画倒れであった。ITは全般的に導入すればそもそも学会に参加する必要がなくなる。アナログで人と人が対話することに学会開催の意味がある。発表タイトルを見るのにいちいちウェブでキーワード検索しなければならないのが煩わしい。すぐ次の演題に類似の発表があっても、キーワードの設定が違っていれば気付かないことがある。冊子体は必ず必要である。IT企業と結託して経費を浮かせようとする魂胆が許せない。
※	このような年会を企画することは大変勇気があることであり、その実現への労力は大変なものであったと容易に想像できません。本年会は、分子生物学会の新たなコンセプトを提案するうえで十分インパクトがあり、各参加者も学会の新たな魅力を見いだせた年会であったと思います。来年以降の年会については、企画を引き継ぐだけではなく、新しいチャレンジも行って頂ければ、分子生物学会はより活性化すると思います。本年会の企画・運営に携わった皆様方のチャレンジ精神と努力に対し、深い敬意を表すとともに、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。ありがとうございました。
※	JAZZ企画は是非、毎回、実施しましょう！
※	会場の案内表示が分かりにくかった。できれば地図入りでの表示があると嬉しい。例えばランチョンセミナーの整理券の配布場所などは非常に探すのに苦労しました。
※	意欲的な企画を立てていただいた年会長、年会委員会の皆様に感謝します。アーティストを招いた事で新たな発想が生まれ、聴衆を増やす経緯になるかも知れません。アート企画は継続すると共に文芸関係者なども引き込む事で有効なアウトリーチ活動になると思います。大先生の顔に落書き、は企画としてはまずかった。
※	是非今回の年会の内容を続けてほしいなと思いました。第37回年会のHPで徹底的に議論するの的なことが記載されていましたが、今回の年会に参加して、それは専門の研究会で行えばいいのかなと思いました。今のままの37回HPの内容だと授業や実習もあるし不参加かなと思います。
※	参加したいセッション、ポスター発表、企画がオーバーラップしていたため、すべてに参加できなくて残念だった。すべてを取るのには難しいかもしれないが、朝早い時間、夜遅い時間なども活用できるとよかった。
※	ポスター演題の採択率ほぼ100%はやめる。50%くらいにしてもまだカスな発表が混じる。横浜か神戸しか会場が設営できないのは無駄に肥大化した成れの果てだ。
※	横浜、神戸ばかりで飽きてきたので、他の開催地ももっと検討してほしい。
※	来年というか今年は反動が来るのを覚悟しつつ、それでもやはり何かに挑戦してくれることを期待しています。
※	学会とJAZZの融合を来年もして欲しい。人とのつながりが増える。
※	ぜひ、これからの学会でもJazzやアートなどの企画を継続してほしい。
※	近藤滋先生、よくやったケツの穴のちいさい批判にまげずガンバレ！応援しています
※	ジャズ企画を今後とも続けて欲しい。
※	今回はよい学会でした。ぜひ次回以降も意欲的な「学会」を提案してほしい
※	新しい試みをふんだんに盛り込んだことはよかったと思う。ただうまくいった企画もあればスカだったものもあるので、十分に検討して次年度以降に活かして欲しい。こうした試みを4~5年続けてはじめて、ようやく学会がよくなっていくと思う。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	・ITシステムと併用で、ポスター発表のタイトル・発表者名・所属だけを紙媒体にて配布することを強く希望します。・大多数を占めるポスター発表を重視することで、学生も発表することに意義を感じるようになります。今学会は、ポスターだけ貼って、実際には同窓会という学生が多かったと感じます。
※	年会長に形式を一任するには、どうかと思います。理事会である程度方針を決めた方がいいと思います。近藤年会は楽しかったですが、次にやる人は大変ですね。皆様、お疲れさまでした。
※	そもそも、分子生物学会をどうすべきかを先に議論するべきではないだろうか。
※	いろいろな点で意欲的な年会で、とても良かったと思う。年会長をはじめ、準備にあたられた方に敬意を評したい。
※	・ショービズ要素を増やして欲しい・飲食ブースの充実
※	社会への発信力があり、大変素晴らしい学会でした。Jazzを通じて多くの研究者と知り合う機会が生まれ、ヒューマニズムを支えられた研究のネットワークの可能性を感じます。今後とも、Jazzを続けたい！！
※	まずこのアンケート欄に文字制限があるのならはじめから教えてほしい。書いてから文字が多すぎるといわれても困る。なので分割しました。最後の市民公開講座にも参加しましたが、誰も市民が入ってくるのを見ませんでした。分生の人たちだけです。一般社会が注目するイベントとしての学会を目指しているのに、なにかおかしい気がしました。そもそも、一般の方は学会に参加したいと思うだろうか。SFTークショー「2050年シンポジウム」は一般の人が見ても面白い内容だったと思います。専門的な知識がなくても理解できるので、2050年シンポジウムから市民参加を許して良いのではないかと思った(らいねんがあれば)。このシンポジウムがテレビに放映されるのはたいへん良いことだと思う。この機会に、分子生物学会こそ、大きな学会として生き残れる唯一の学会になってほしい。市民の支持を受けて！ 毎年、近藤滋先生に年会長をやってほしいくらいだ！
※	規模が大きくなり硬直化した感がある本会ですが、奇抜ともとれる企画の数々で自らの再生をはかろうとする、そんな柔軟で刺激的な度量のある学会であり続けてもらいたいと願います。